

フレイルの進行に関わる要因に関する研究（25-11）

主任研究者 佐竹 昭介 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター  
フレイル研究部 フレイル予防医学研究室（室長）

研究要旨

3年間全体について

本研究班では、実用的かつ国際的に認められるフレイル評価基準を作成し、我が国のフレイル高齢者の割合を推計することが第1の目的であった。フレイルの評価方法は、Friedらが Cardiovascular Health Study (CHS) で用いた phenotype model を基盤とした。これは、phenotype model による評価が学术论文の6割以上で使用されていることから、本研究班の調査でも世界の動向に準ずることが妥当と考えた。我々は、歩行速度、筋力（握力）、活動性低下、体重減少、倦怠感・易疲労感の5項目を指標とし、我が国における高齢者に適切と考えられる基準値を討議した。すでに先行研究として報告された Obu Study の評価を基準として、日本版 CHS 基準（J-CHS 基準）を作成した。この基準によるフレイル評価の妥当性は、ADL 低下や死亡のイベント発生を有意に予測することにより裏付けられた。また、Edmonton Frail Scale や我が国で開発された基本チェックリスト、既存の各種標準的機能評価法との関連性も確認され、妥当性が多面的に検証された。

本研究班の第2の目的は、J-CHS 基準に基づく我が国のフレイル高齢者の推計であった。地域在住高齢者 13,159 名（平均年齢 73.5 歳）を対象にした場合には 8.1%がフレイル高齢者と評価され、病院通院高齢者 722 名（平均年齢 76.2 歳）を対象にした場合には 22.2%がフレイル高齢者と評価された。さらに、フレイルの中核的病態と考えられているサルコペニアについて、Asia Working Group for Sarcopenia (AWGS) の基準に基づいた評価を行ったところ、地域在住高齢者 3,293 名（平均年齢 73.4 歳）の 7.7%の高齢者がサルコペニアを有していた。高血圧などの生活習慣病を有する高齢者では 18.8%（平均年齢 75.8 歳）、リウマチ患者では 37.1%と、通院高齢者ではより高率にサルコペニアを併存していた。

本研究班の第3の目的は、フレイルの進行に関わる要因を検討することであった。健常→プレフレイル→フレイル→身体障害（または要介護状態）という加齢に伴う機能変化に拍車をかける要因として、運動機能低下、閉じこもり、認知機能低下が重要であることが確認された。この中で、移動機能に関わる歩行障害の出現が、プレフレイルの段階から身体機能障害の発生に関連することも明らかになった。歩行障害は、ロコモティブシンドロームの評価法（立ち上がりテスト、2ステップテスト、ロコモ 25 問診票）と関連することから、ロコモティブシンドロームが身体的フレイルの重要な病態の一つであることが示唆された。健常からプレフレイルに至る増悪因子としては、社会性の低下、口腔機能の低下、

転倒の不安、精神的活力の低下が抽出され、より早期の段階では多面的に評価することが重要であると考えられた。

本研究班の結果は、高齢者のフレイル評価（とくに後期高齢者）を医療・介護のフィールドを問わず定期的実施することが、健康長寿社会の実現に必要であることを示唆しており、我が国が世界に先駆けて行った介護予防健診（特定高齢者健診）のシステム（基本チェックリストによるスクリーニングと総合機能評価）を、介護のみならず医療機関と連携して実施することの意義が確認された。

#### 平成 27 年度について

平成 26 年度に作成したフレイルの共通評価基準に基づき、各フィールドにおけるフレイル高齢者の推計を行った。地域在住高齢者を対象にした調査（対象者 13,159 名、平均年齢 73.5 歳）でのフレイル高齢者の割合は約 8.1%、通院高齢者（対象者 722 名、平均年齢 76.2 歳）では約 22.2%と算出された。また AWGS 基準に基づくサルコペニアの罹患率は、高血圧をはじめとする生活習慣病で医療機関に受診する高齢者を対象にした調査では 18.8%（対象者 206 名）、リウマチ患者を対象にした調査では 37.1%（対象者 388 名）であった。

フレイルの進行に関わる要因としては、運動機能、閉じこもり、認知機能低下が自立機能障害に拍車をかけることが示唆された。

主任研究者	佐竹 昭介	NCGG 老年学・社会科学センター	フレイル予防医学研究室長
分担研究者	荒井 秀典	国立長寿医療研究センター	副院長
	遠藤 直人	新潟大学大学院医歯学総合研究科	機能再建医学講座 教授
	小川 純人	東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座	准教授
	金 憲経	東京都健康長寿医療センター研究所	研究部長
	葛谷 雅文	名古屋大学	未来社会創造機構人とモビリティ社会の研究開発センター教授
	神崎 恒一	杏林大学医学部	高齢医学 教授
	権藤 恭之	大阪大学人間科学研究科臨床死生学・老年行動学講座	准教授
	島田 裕之	NCGG 老年学・社会科学センター	予防老年学研究部 部長
	杉本 研	大阪大学老年・腎臓内科学	講師
	千田 一喜	国立長寿医療研究センター治験・臨床研究推進室	室長
	田中 栄	東京大学医学部附属病院整形外科	教授
	橋本 求	京都大学大学院医学研究科	リウマチ性疾患制御学講座

特定助教

松林 公蔵 京都大学東南アジア研究所フィールド医学  
教授

山田 実 筑波大学大学院人間総合科学研究科  
准教授

吉田 英世 東京都健康長寿医療センター研究所  
研究部長

研究期間 平成25年4月1日～平成28年3月31日

## A. 研究目的

本研究班の目的は、①共通のフレイル評価基準を作成すること、②我が国のフレイル高齢者の推計を行うこと、③フレイル状態を増悪させる要因について検討することである。共通のフレイル評価基準は、学術的なフレイル評価として最も広く受け入れられているFriedらのphenotypeモデルに基づく評価法を基盤とし、地域の介護予防対象となる高齢者や、医療機関に通院する高齢者など、調査フィールドが異なっても利用されやすいものとするを第1の目的とした。この基準に基づき、日本国内の地域在住高齢者や通院高齢者を対象に、フレイル罹患率を推計することを第2の目的とした。また、フレイルの中核病態と考えられているサルコペニアの罹患率について、AWGSの基準に基づいて解析を行うことにした。

第3の目的は、フレイルの進行に関わる要因解析で、フレイル状態の悪化(PrefrailやFrailへの変化)、転倒、生活活動度(ADL)の低下、死亡などのイベント発生をアウトカムとして、各調査フィールドの対象者を分担研究者が個々に解析することにした。

## B. 研究方法

3年間全体について

本研究班に参加した研究者の各フィールドで対象にしている高齢者(地域在住高齢者、一般外来通院高齢者、特定疾患罹患高齢者など)に対し、いずれのフィールドでも評価しうる基準値をFriedらのphenotype modelの項目に沿って検討した。共通のフレイル評価法(J-CHS基準)は、平成26年度に行った2回の班会議で作成した。平成26年度以後、J-CHS基準とAWGS基準に基づいて、フレイル、サルコペニアを評価し、地域在住高齢者、一般外来通院高齢者、特定疾患罹患高齢者における罹患率を調査した。

また、フレイルの進行に関する要因の検討に関しては、各フィールドにおける縦断調査を基盤に、運動機能、栄養、高次脳機能、併存症、生活習慣などの面から解析を行った。

<フレイル評価基準(J-CHS基準)>

Friedらのphenotype modelの指標(体重減少、倦怠感、活動量、握力、通常歩行速度)

に対し、我が国で妥当と考えられる基準値に修正して作成した。5つの指標のうち、3つ以上を有する場合にフレイル、1-2つに該当する場合にプレフレイル、いずれにも該当しない場合に健常または頑強と評価する。

＜サルコペニア評価基準（AWGS 基準）＞

AWGS が提唱したサルコペニア評価に基づいて評価を行った。すなわち、下記1) を必須項目とし、2) または3) のいずれか、またはその両方を併せて有する場合にサルコペニアありと評価する。

1) 四肢骨格筋指数（インピーダンス法）：男性 7.0 kg/m<sup>2</sup> 未満、女性 5.7 kg/m<sup>2</sup> 未満

2) 通常歩行速度：（測定区間の前後に 1 m の助走路を設け、測定区間 5 m の時間を計測する）0.8m/秒未満

3) 握力：（利き手における測定）男性 26kg 未満、女性 18kg 未満の場合

＜ロコモ度評価＞

1) 立ち上がりテスト：10cm、20cm、30cm、40cm の 4 つの高さの台を準備し、片脚または両脚で立ち上がれるかどうかで脚力を測る。

2) 2 ステップテスト：できる限り大股で 2 歩歩き、2 歩分の歩幅を測定し、身長で除して 2 ステップ値を算出する。2 ステップ値により、下肢の筋力、バランス能力、柔軟性などを含めた歩行能力を評価する。

3) 過去 1 ヶ月の間に、体の痛みや日常生活の困難がなかったか否かについて、25 項目の問診票で評価する。

ロコモ度 1：次の 3 つのいずれかに該当した場合。①立ち上がりテストで、片脚で 40cm の高さから立つことができない、②2 ステップテスト<1.3、③ロコモ 25≥7。

ロコモ度 2：次の 3 つのいずれかに該当した場合。①立ち上がりテストで、両脚で 20cm の高さから立つことができない、②2 ステップテスト<1.1、③ロコモ 25≥16。

（倫理面への配慮）

各調査において、分担研究者が所属する機関の倫理委員会で承認を得て実施した。

平成 27 年度について

研究方法は 3 年間通して同様であるため、上記記載通りである。

## C. 研究結果

3 年間全体について

### ●フレイル評価基準の作成（J-CHS 基準）

下記 5 つの評価基準のうち、3 つ以上に該当するものをフレイル、1 つまたは 2 つに該当するものをプレフレイル、いずれにも該当しないものを健常または頑健とする。

1) 体重減少：「6 か月間で 2～3 kg 以上の（意図しない）体重減少がありましたか？」に「はい」と回答した場合

2) 倦怠感：「(ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする」に「はい」と回答した場合

3) 活動量：「軽い運動・体操（農作業も含む）を1週間に何日くらいしていますか？」及び「定期的な運動・スポーツ（農作業も含む）を1週間に何日くらいしていますか？」の2つの問いのいずれにも「運動・体操はしていない」と回答した場合

4) 握力：(利き手における測定) 男性 26kg 未満、女性 18kg 未満の場合

5) 通常歩行速度：(測定区間の前後に1mの助走路を設け、測定区間5mの時間を計測する) 1m/秒未満の場合

この基準によるフレイル評価の妥当性は、ADL低下や死亡のイベント発生を有意に予測することにより裏付けられた。また、Edmonton Frail Scaleや我が国で開発された基本チェックリスト、既存の各種標準的機能評価法との関連性も確認され、妥当性が多面的に検証された。

#### ●我が国におけるフレイル高齢者の推計（表）

地域在住高齢者 13,159 名（平均年齢 73.5 歳）を対象にした場合には 8.1%がフレイル高齢者と評価され、病院通院高齢者 722 名（平均年齢 76.2 歳）を対象にした場合には 22.2%がフレイル高齢者と評価された。さらに、フレイルの中核的病態と考えられているサルコペニアについて、Asia Working Group for Sarcopenia (AWGS) の基準に基づいた評価を行ったところ、地域在住高齢者 3,293 名（平均年齢 73.4 歳）の 7.7%の高齢者がサルコペニアを有していた。高血圧などの生活習慣病を有する高齢者では 18.8% (平均年齢 75.8 歳)、リウマチ患者では 37.1%と、通院高齢者ではより高率にサルコペニアを併存していた。

### ●フレイルの進行に関わる要因

824 名の高齢者を対象にした解析で（平均年齢 69 歳）、健常高齢者からプレフレイル状態への進行に関わる因子としては、社会性の狭小化、転倒の不安、口腔機能の低下、精神的活力の低下が抽出された。また、80 歳台の女性 488 名を対象とした調査では、健常からプレフレイルへの進行は 4.6%、プレフレイルからフレイルへの進行は 11.5%と推計された。地域在住高齢者 4,081 名を対象とした解析では、歩行速度低下の有無とプレフレイル、フレイルの有無を組み合わせ、平均 29.5 か月間の要介護認定を追跡調査した。その結果、プレフレイルでもフレイルでも、歩行速度低下のある群では、要介護認定のハザード比が高かった。また、地域高齢者 8,864 名を対象とした解析では、手段的 ADL の低下に対するオッズ比が、身体的フレイル 1.24、認知機能低下 1.71、身体的フレイル+認知機能低下（認知的フレイル） 2.63 であった。通院高齢者で 1 年間の追跡調査が行えた 92 名の高齢者の解析では、フレイル状態の悪化に関わる基本チェックリストの領域として、運動機能・転倒と閉じこもりの項目が有意に関連していた。地域在住高齢者 833 名（平均年齢 77.1 歳）を対象とした 2 年間の追跡調査でも、基本チェックリストの運動機能・転倒の領域が、新規要介護認定に関連した（男性のみ）。

平成 27 年度について

#### ■地域在住高齢者を対象とした研究班：

- 1) 荒井・山田らは、京都府舞鶴市、綾部市、伊根市、兵庫県姫路市、滋賀県米原市の地域在住高齢者 2,194 名に対してフレイル、サルコペニアの罹患率を評価し、フレイルは 5.9%に、サルコペニアは 7.4%に認められることを明らかにした。またサルコペニアは、プレフレイルでは 10.2%に、フレイルでは 33.6%に見られることを明らかにし、フレイル状態の進行に伴い罹患率の増加が見られることを示した。
- 2) 金らは、東京都板橋区在住の 70 歳以上の高齢女性 1,683 名を対象にフレイル評価を行い（活動量と疲労感の基準に変更あり）、19.7%にフレイル高齢者が認められることを示した。また、フレイル高齢者 131 名を対象として介入（運動、栄養：Milk Fat Globule Membrane [MFGM]）を無作為化試験として実施し、終了 4 か月後のフレイル状態の解消を評価した。4 か月の追跡調査が行えた 126 名を解析し、対照群で 15.2%、栄養介入群で 25.0%、運動介入群で 39.4%、運動+栄養では 45.5%においてフレイル状態が解消されたことを示した。
- 3) 葛谷らは、名古屋市鯉城学園に通学する高齢者のうち、サルコペニアのない 620 名を対象として栄養状態と骨格筋量の低下（プレサルコペニア）の関連性を調査した。栄養状態は Mini Nutritional Assessment (MNA)を用い、栄養良好群、低栄養リスク群、低栄養群の 3 群に分類した。栄養良好群では 18.4%にプレサルコペニアを認めたが、低栄養または低栄養リスク群にはプレサルコペニアが 46.9%と有意に高率で併存していたことを示した。
- 4) 島田らは、65 歳以上の大府市在住高齢者 8,864 名を対象に、フレイル評価と共に認知機

能評価を行った。フレイル高齢者が 7.2%、認知機能低下者が 5.2%、フレイルと認知機能低下の併存者（認知的フレイル）が 1.2%存在することを報告した。また、手段的 ADL 低下をアウトカムとした際、健常高齢者に対するフレイルのオッズ比は 1.24、認知機能低下のオッズ比は 1.71、認知的フレイルで 2.63 と、フレイルと認知機能低下の合併により生活の自立が困難になることが示唆された。

5) 吉田らは地域在住の高齢女性 1,214 名を対象としてフレイルを評価し、55.4%がプレフレイル、13.8%がフレイル状態にあることを明らかにした。また 2008 年度と 2014 年度の 2 回、追跡調査が行えた 922 名を対象に、本研究班でのフレイル評価基準が、ADL 低下や死亡のイベント発生を予測しうるか否かを解析した。ADL 低下に対しては、健常者に比べプレフレイルでオッズ比 2.01、フレイルで 6.73、死亡に対しては、プレフレイルのオッズ比は 1.75、フレイルで 2.27 といずれも有意な予測能が示された。

6) 田中らは、ROAD Study に参加している地域在住高齢者 1,575 名（平均年齢 65.6 歳）を対象にロコモ度調査を行った。その結果、移動機能の低下が始まっている状態とされるロコモ度 1 に該当する者は約 70%、移動機能の低下が進行している状態とされるロコモ度 2 に該当する者は約 25%と推計した。またロコモ度評価において用いられる、立ち上がりテスト、2 ステップテスト、ロコモ 25 のいずれも、歩行速度低下 (< 0.8m/s) と有意な関連性が認められることを示した。

7) 権藤らは、SONIC Study に参加している高齢者のうち、80 歳コホート参加の 643 名を対象に、本研究班のフレイル評価基準に基づいて評価を行った（平均年齢 83 歳）。その結果、プレフレイルに該当した高齢者は 59.3%、フレイルに該当した高齢者は 12.1%であった。

8) 松林らは、高知県 T 町在住の 75 歳以上の高齢者 244 名を対象に、本研究班のフレイル評価基準に基づいて評価を行った。その結果、プレフレイル状態の高齢者が 56%、フレイル高齢者が 24%あることを示した。また、このような評価による分類が、標準的総合機能評価（基本的 ADL、手段的 ADL、抑うつスケール、認知機能、基本チェックリスト）とカテゴリー依存的に有意差を認めその妥当性が確認された。

#### ■医療機関への通院高齢者を対象とした研究班：

1) 橋本らは、京都大学附属病院リウマチセンターに通院する関節リウマチ患者 388 名を対象にサルコペニアの有病率を調査し、37.1%にサルコペニアが認められたことを示した。サルコペニアを有する患者では、リウマチの疾患活動性が高く、ステロイド及び生物学的製剤の使用率が高く、身体機能の低下と関節の障害が重度で、栄養状態も低下していることが明らかにされた。さらに、サルコペニアの有無に関連する因子の解析から、罹病期間、関節障害、低栄養がサルコペニアの促進因子となり、生物学的製剤の使用が抑制因子となりうる可能性を示した。

2) 神崎らは、杏林大学もの忘れ外来に通院している 65 歳以上の高齢者 91 名を対象に、本

研究班のフレイル評価基準を適用し、23%にプレフレイル、18%にフレイルが併存することを明らかにした。また本研究班の評価基準が、Edmonton Frail Scale によるフレイル評価と有意に関連することも解析し、評価基準の妥当性を示した。

3) 杉本らは、生活習慣病の管理のために大阪大学医学部附属病院 老年・高血圧内科に入院または通院中の独歩可能な 65 歳以上の患者 206 名を対象に、本研究班の共通基準でフレイル評価を行った。その結果、対象者の 67.0%にプレフレイルが認められ、23.3%にフレイルが認められた。さらに、1 年間の転倒発生をアウトカムとした時、歩行速度の低下と抑うつ気分が予測因子として検出され、ADL 低下をアウトカムとした時には、歩行速度の低下と糖尿病が関連因子として抽出された。

4) 佐竹・千田らは、国立長寿医療研究センター高齢者総合診療科、呼吸器リハビリテーション科、内分泌代謝内科、外科に通院する 65 歳以上の高齢者 372 名を対象に、フレイル高齢者の有症率を解析した。対象者の 51.9%にプレフレイル、24.2%にフレイルが認められることを示した。佐竹は 1 年間追跡調査を行った 92 名の高齢者を対象に、基本チェックリストの各領域とフレイル状態の悪化の関連性を解析した。その結果、運動機能・転倒の領域と閉じこもりがフレイル状態の悪化要因となりうることを示した。千田は、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者 32 名と睡眠時無呼吸症候群 (OSAS) 患者 34 名を縦断的に観察し、本研究班で定めたフレイル評価の進行と基本チェックリスト総合点の悪化に一定の関連性が見られること、また OSAS 患者では夜間の人工呼吸器の装着継続がフレイル高齢者で困難になりやすいことを示した。

5) 小川らは、東京大学医学部附属病院老年病科にもの忘れの検査目的で入院した高齢者を対象として、フレイルのバイオマーカーに関する調査を行った。この中で、L-カルニチン濃度は、BMI、Barthel Index と正の相関が認められ、GDS と負の相関が認められると報告した。

6) 遠藤らは、新潟大学医歯学総合病院整形外科外来に通院する 65 歳以上の高齢者 53 名 (平均年齢 74.5 歳) を対象に、フレイル、ロコモティブシンドロームの罹患率を解析した。対象者のうち、プレフレイルに該当する高齢者は 62.3%、フレイル高齢者は 11.3%、ロコモ度 1 に該当する高齢者は 49.1%、ロコモ度 2 は 39.6%であった。

#### D. 考察と結論

本研究班は、既存の調査フィールドを有する研究者 (とくに地域在住高齢者を対象としてコホート調査を行っている研究者) や整形外科領域の専門家に新たに参加を依頼し、平成 26 年度より組織を拡大した。そして、我が国におけるフレイル高齢者の罹患率推計を行うことや、フレイル状態に影響する因子について解析することを目的として調査を行った。研究班の組織拡大に伴い、医療機関に通院する高齢者のみではなく、地域在住高齢者の集団調査でも評価可能なフレイル評価基準に統一する必要がある、新たな基準を作成してフレイル高齢者の推計を行った。この共通フレイル基準を用いた 3 年間での報告では、地域

在住高齢者におけるフレイル高齢者の割合は概ね 10%未満であったのに対し、病院通院高齢者では 20%程度と高率にフレイル状態が併存していることが明らかとなった。このことは、慢性疾患がフレイル状態を促進していることを示唆しており、高齢者医療の現場で見逃されているフレイル状態の評価を行うことが、健康長寿社会の実現のために重要であると考えられる。そして疾患の治療とフレイル予防という、健康長寿を意識した治療法を確立していく上でも重要であり、今後はフレイル状態進行の有無をアウトカムとする治療介入の解析も重要になると考えられる。

フレイルの中核病態と考えられるサルコペニアの有病率は、地域在住高齢者を対象とした場合、概ね 10~15%と報告されており、本研究班における報告も概ね同等であった。サルコペニアと骨粗鬆症については、互いの存在が併存危険度を約 2.8 倍高めることが明らかにされ、加齢に伴う骨と筋肉の脆弱化が互いに関連しあうことが示された。これらは整形外科学会が提唱するロコモティブシンドロームの原因疾患であり、高齢期における介護予防の重要な視点を与えていると考えられる。また、ロコモの評価方法は、歩行機能低下に関連することが明らかとなり、身体的フレイルの増悪に拍車をかける重要な問題であることが確認された。さらに今回の報告で、リウマチ患者におけるサルコペニアの有病率が極めて高いことが明らかにされ(約 37%)、リウマチの治療・管理においてサルコペニアの進行予防を視野に入れた取り組みも重要であることが示された。このような運動器疾患は、ヒトの老いの過程に大きく関わる因子と推測される。フレイルやロコモ、サルコペニアなどの概念は、高齢期の身体管理という点から新たなパラダイムシフトのきっかけになることが期待される。

フレイルの増悪に関連する因子としては、ヒトが獲得した高次脳機能と二足歩行機能(運動機能)の低下が重要であることが確認された。進化の過程でヒトが新たに獲得した高次機能は、老いの過程で早期に低下する危険が高い。これらの身体機能は、社会的、精神的活力に基づく生活機能から影響を受けるため、早期から定期的な総合評価を行うことが大切である。この意味で、簡易総合機能評価法として導入された基本チェックリストの活用は簡便かつ有用であり、高齢者の健康増進や医療現場での活用が望まれる。また基本チェックリスト総合点が、Fried らの **phenotype model** の該当数と有意な関連性を示すことは、フレイルのスクリーニング法としても有用であることを示すと同時に、我が国にフレイルという概念が普及する以前に、世界に先駆けて国家的戦略としてフレイル高齢者対策(現:二次予防事業)を導入したことを意味している。フレイルという概念が、生物学的な老化に基盤を置いた視点から展開されたのに対して、二次予防事業対象者という概念は、行政的視点から着想され展開されている。しかしながら、フレイルの概念定義にあるように「いくつかの生理機構にまたがる恒常性維持機構の低下」は、まさに多領域の生活機能障害に影響を及ぼすものであり、多領域の生活機能低下を抽出する基本チェックリストの総得点がフレイル評価と表裏一体をなすことは自明である。

急速な高齢化と医療の発展により、従来、加齢に伴う心身機能の変化を視野に入れず、

医療が個々の加齢問題を踏まえた適切な介入をしなかった可能性が考えられる。超高齢社会を迎えた我が国をはじめ、先進諸国は次々に高齢社会を迎えている。ここに来て、寿命という問題を改めて捉えなおし、健康寿命の延伸というパラダイムシフトが提唱されるようになった。このような新たなパラダイムを推進するために、フレイル、サルコペニア、ロコモなどの概念が重要となっている。世界的な動向からも、今後益々この概念が医療に取り入れる必要がある。本研究班の結果は、必ずしも十分とは言えないが、今後の高齢社会における医療・介護の方向性を考える上で、重要な示唆に富む報告を多数含んでいる。

#### E. 健康危険情報：なし

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

平成 25 年度

- 1) Gotanda H, Kameyama Y, Yamaguchi Y, Ishii M, Hanaoka Y, Yamamoto H, Ogawa S, Iijima K, Akishita M, Ouchi Y: Acute exogenous lipoid pneumonia caused by accidental kerosene ingestion in an elderly patient with dementia: a case report. *Geriatr. Gerontol. Int.* 13:222-225, 2013
- 2) Son BK, Akishita M, Iijima K, Ogawa S, Arai T, Ishii H, Maemura K, Aburatani H, Eto M, Ouchi Y: Thrombomodulin, a novel molecule regulating inorganic phosphate-induced vascular smooth muscle cell calcification. *J. Mol. Cell Cardiol.* 56:72-80, 2013
- 3) Ota H, Akishita M, Tani H, Tatefuji T, Ogawa S, Iijima K, Eto M, Shirasawa T, Ouchi Y: trans-resveratrol in gnetum gnemon protects against oxidative-stress induced endothelial senescence. *J. Nat. Prod.* 76:1242-1247, 2013
- 4) Shibasaki K, Ogawa S\*, Yamada S, Iijima K, Eto M, Kozaki K, Toba K, Akishita M, Ouchi Y: Association of decreased sympathetic nervous activity with mortality of elderly in long-term care. *Geriatr. Gerontol. Int.* 14:159-166, 2014 (\*correspondence)
- 5) Ogawa S. Nutritional management of elderly with cognitive decline and dementia. *Geriatr. Gerontol. Int.* (*in press*)
- 6) 永井久美子, 小柴ひとみ, 小林義雄, 山田如子, 須藤紀子, 長谷川浩, 松井敏史, 神崎恒一: 老年症候群の適切な把握のためのもの忘れセンター予診票の作成に関する検討ー予診票の妥当性と信頼性および回答者による回答率の差異についての検証ー. *日本老年医学会雑誌* 51 (2) : 2014. *In press.*
- 7) Koji Shibasaki, Sumito Ogawa, Shizuru Yamada, Katsuya Iijima, Masato Eto, Koichi Kozaki, Kenji Toba, Masahiro Akishita and Yasuyoshi Ouchi: Association of decreased sympathetic nervous activity with mortality of older adults in long-term care: *Geriatr Gerontol Int* 14.: 159-166, 2014.
- 8) 神崎恒一: サルコペニアの定義と診断法. *日本医事新報* No.4677 : 22-26, 2013.
- 9) Tanaka M, Nagai K, Koshihara H, Sudo N, Obara T, Matsui T, Kozaki K: Weight loss and homeostatic imbalance of leptin and ghrelin levels in lean geriatric patient. *J Am Geriatric Soc* 61: 2234-2236, 2013.
- 10) Kumiko Nagai, Shigeki Shibata, Masahiro Akishita, Noriko Sudoh, Toshimasa Obara, Kenji Toba, Koichi Kozaki: Efficacy of combined use of three non-invasive

- atherosclerosis tests to predict vascular events in the elderly; carotid intima-media thickness, flow-mediated dilation of brachial artery and pulse wave velocity. *Atherosclerosis* 231(2): 365-370, 2013.
- 11) Masahiro Akishita, Shinya Ishii, Taro Kojima, Koichi Kozaki, Masafumi Kuzuya, Hidenori Arai, Hiroyuki Arai, Masato Eto, Ryutaro Takahashi, Hidetoshi Endo, Shigeo Horie, Kazuhiko Ezawa, Shuji Kawai, Yozo Takehisa, Hiroshi Mikami, Shogo Takegawa, Akira Morita, Minoru Kamata, Yasuyoshi Ouchi, Kenji Toba : Priorities of Health Care Outcomes for the Elderly. *JAMDA* 14 : 479-484, 2013.
  - 12) 木村紗矢香, 山田如子, 町田綾子, 杉浦彩子, 鳥羽研二, 神崎恒一 : 高齢者の耳掃除と高齢者総合的機能評価. *日本老年医学会雑誌* 50(2) : 264-265, 2013.
  - 13) 長谷川浩, 神崎恒一 : 三鷹市・武蔵野市の取り組み. *日本老年医学会雑誌* 50(2) : 194-196, 2013.
  - 14) 神崎恒一 : サルコペニアと転倒—老年医学の立場から. *Bone Joint Nerve* 13(1) : 83-88, 2013.
  - 15) Senda K, Satake S, Kondo I, Tokuda H, Shibasaki M, Nishikawa M, Miura H, Endo H, Toba K : Sarcopenia in physically inactive Japanese elder patients with chronic obstructive pulmonary disease (COPD) undergoing interdisciplinary comprehensive pulmonary rehabilitation. *J Nutr health Aging*. 17: S480, 2013
  - 16) Satake S, Shimokata H, Senda K, Kondo I, Toba K : The predictive validity of the Kihon Checklist for identifying frailty in a community-dwelling older population. *J Nutr health Aging*. 17: S508, 2013
  - 17) Takeda J, Senda K, Satake S, Shibasaki M, Nishikawa M, Tokuda H, Miura H, Endo H, Toba K : Sarcopenia and frailty in Japanese elder patients with obstructive sleep apnea syndrome (OSAS) undergoing continuous positive airway pressure (CPAP) therapy. *J Nutr health Aging*. 17: S790, 2013
  - 18) Senda K, Satake S, Kondo I, Nishikawa M, Nishimura K, Tokuda H, Miura H, Endo H, Toba K: Sarcopenia in Japanese elder patients with chronic obstructive pulmonary disease undergoing comprehensive pulmonary rehabilitation. *Eur Geriatr Med*. 4: S81, 2013
  - 19) Satake S, Senda K, Hong Y, Miura H, Endo H, Kondo I, Toba K : The usefulness of Kihon Checklist (KCL) to predict adverse outcomes in geriatric outpatients with chronic diseases. *Eur Geriatr Med*. 4: S82, 2013
  - 20) Senda K, Satake S, Kondo I, Tokuda H, Nishikawa M, Miura H, Endo H, Toba K : High prevalence of pre-sarcopenia; Reduced muscle mass and preserved muscle strength and function, diagnosed with the European Working Group on Sarcopenia in Older People (EWGSOP) algorithm, in Japanese elder patients with chronic obstructive pulmonary disease undergoing pulmonary rehabilitation. *J Cachexia Sarcopenia Muscle* 5: 38, 2014
  - 21) Senda K, Satake S, Kondo I, Tokuda H, Nishikawa M, Miura H, Endo H, Toba K : Clinical application of the Kihon Checklist to predict frailty and sarcopenia in Japanese elder outpatients with chronic obstructive pulmonary disease. *J Frailty Aging*. 3: 64, 2014
  - 22) 千田一嘉 : サルコペニア. *呼吸器内科* 23: 552-60, 2013
  - 23) 千田一嘉 : 高齢者医療とうつ 5. COPD とうつ. *日老会誌* 50: 755-8, 2013
  - 24) 千田一嘉 : European Union Geriatric Medicine Society (EUGMS) 2013 に参加して. *Geriatric Medicine (老年医学)* 52: 209-11, 2014
  - 25) 千田一嘉 : サルコペニアと COPD. *医学のあゆみ* 248: 709-12, 2014
  - 26) Chen LK, Liu LK, Woo J, Assantachai P, Auyeung TW, Bahyah KS, Chou MY, Chen LY,

Hsu PS, Krairit O, Lee JSW, Lee WJ, Lee Y, Liang CK, Limpawattana P, Lin CS, Peng LN, Satake S, Suzuki T, Won CW, Wu CH, Wu SN, Zhang T, Zeng P, Akishita M, Arai H: Sarcopenia in Asia: Consensus Report of the Asia Working Group for Sarcopenia. *JAMDA*, 15, 95-101, 2014

- 27) 佐竹昭介: 高齢者の栄養障害 1) 高齢者の栄養とサルコペニア・虚弱 栄養-評価と治療 Vol. 30 No. 3, P23 (199) -25 (201) , 2013. 8

平成 26 年度

- 1) Satake S, Senda K, Hong Y-J, et al. Validity of the Kihon checklist for assessing frailty status. *Geriatr Gerontol Int* (In press)
- 2) Arai H, Satake S. English translation of Kihon Checklist. *Geriatr Gerontol Int* 2015 Apr; 15(4): 518-9. Doi: 10. 1111/ggi.12397 PMID: 25828791
- 3) 遠藤直人. 骨粗鬆症患者の QOL 評価にはどのような指標がよいか? *Calcium Pros and Cons: カルシウム代謝研究・議論の変遷*, pp162-167 医薬ジャーナル社, 東京, 2015
- 4) 遠藤直人. 副甲状腺ホルモン薬 (テリパラチド) . インフォームドコンセントのための図説シリーズ, 骨粗鬆症改訂 3 版, 杉本利嗣編集 pp64-65 医薬ジャーナル社, 東京, 2015
- 5) 遠藤直人. 骨粗鬆症. *臨床雑誌 内科* 114 : 1209-1211, 2014
- 6) 遠藤直人. 骨粗鬆症治療薬. *新薬ジャーナル (増刊号)* 51:243-246, 2015
- 7) Shibasaki K, Ogawa S\*, Yamada S, Iijima K, Eto M, Kozaki K, Toba K, Akishita M, Ouchi Y: Association of decreased sympathetic nervous activity with mortality of elderly in long-term care. *Geriatr. Gerontol. Int.* 14:159-166, 2014
- 8) Ogawa S\*. Nutritional management of elderly with cognitive decline and dementia. *Geriatr. Gerontol. Int. Suppl* 2:17-22, 2014
- 9) 神崎恒一: 総論 フレイルと老年症候群. フレイル-超高齢社会における最重要課題と予防戦略. 葛谷雅文, 雨海照祥 編集. 東京, 医歯薬出版, 2014, 23-30.
- 10) 神崎恒一: サルコペニアの定義と診断. *整形・災害外科* 57 : 1389-1396, 2014.
- 11) Kim H, Suzuki T, Kim M, Kojima N, Ota N, Shimotoyodome A, Hase T, Hosoi E, Yoshida H. Effects of exercise and milk fat globule membrane (MFGM) supplementation on body composition, physical function, and hematological parameters in community-dwelling frail Japanese women: A randomized double blind, placebo-controlled, follow-up trial. *PLoS One*, in press, 2015
- 12) Kim H, Suzuki T, Saito K, Kojima N, Hosoi E, Yoshida H. Long-term effects of exercise and amino acid supplementation on muscle mass, physical function and falls in community-dwelling elderly Japanese sarcopenic women: A 4-year follow-up study. *Geriatr Gerontol Int*, in press, 2015
- 13) Kim H, Suzuki T, Kim M, Kojima N, Yoshida Y, Hirano H, Saito K, Iwasa H, Shiamda H, Hosoi E, Yoshida H. Incidence and predictors of sarcopenia onset in community-dwelling elderly Japanese women: 4-year follow-up study. *J Am Med Dir Assoc.* 16(1):85.e1-85.e8, 2015
- 14) Kim H, Yoshida H, Suzuki T: Falls and fractures in participants and excluded non-participants of a fall prevention exercise program for elderly women with a history of falls: 1-year follow-up study. *Geriatr Gerontol Int.* 14(2):285-292, 2014
- 15) Kim H, Yoshida H, Hu X, Saito K, Yoshida Y, Kim M, Hirano H, Kojima N, Hosoi E, Suzuki T. Association between self-reported urinary incontinence and musculoskeletal conditions in community-dwelling elderly women: A cross-sectional study. *Neurourol Urodyn.* Jan 28. doi: 10.1002/nau.22567, 2014

- 16) 金憲経：転倒リスクと歩行との関連. バイオメカニズム学会誌 38(4):233-239, 2014
- 17) 金憲経：転倒予防のための運動プログラムの効果と限界. Modern Physician 34 (10): 1129-1132, 2014
- 18) Seino S, Shinkai S, Fujiwara Y, Obuchi S, Yoshida H, Hirano H, Kim H, Ishizaki T, Takahashi R; TMIG-LISA Research Group: Reference values and age and sex differences in physical performance measures for community-dwelling older Japanese: a pooled analysis of six cohort studies. PLoS One. 2014 Jun 12;9(6):e99487. doi: 10.1371/journal.pone.0099487. eCollection 2014
- 19) Kojima N, Kim H, Saito K, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Obuchi S, Shimada H, Suzuki T: Association of knee-extension strength with instrumental activities of daily living in community-dwelling older adults. Geriatr Gerontol Int. 14(3):674-80, 2014
- 20) Hashizume M, Hachisu M, Yoshida H, Kim M, Kim H, Amano Y, Hasegawa C, Suzuki T, Ihara K: Serum brain-derived neurotrophic factor level in elderly women depression: A community-based study. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. Aug 29; 56C: 109-116, 2014
- 21) Kim M, Yoshida H, Sasai H, Kojima N, Kim H: Association between objectively measured sleep quality and physical function among community-dwelling oldest old Japanese: A cross-sectional study. Geriatr Gerontol Int. Oct 14. doi: 10.1111/ggi.12396, 2014
- 22) Murakami M, Hirano H, Watanabe Y, Sakai K, Kim H, Katakura A.: Relationship between chewing ability and sarcopenia in Japanese community-dwelling older adults. Geriatr Gerontol Int. Nov 3. doi: 10.1111/ggi.12399, 2014
- 23) 高柳直人、山城由華吏、須藤元喜、仁木佳文、時光一郎、金美芝、金憲経：活動量計を用いた日常歩行速度とADL低下に関する研究. 厚生指標 61 (4): 15-20, 2014
- 24) Takeshita H, Ikebe K, Kagawa R, Okada T, Gondo Y, Nakagawa T, Ishioka Y, Inomata C, Tada S, Matsuda K, Kurushima Y, Enoki K, Kamide K, Masui Y, Takahashi R, Arai Y, & Maeda Y. Association of personality traits with oral health-related quality of life independently of objective oral health status: A study of community-dwelling elderly Japanese. J Dent. 43(3):342-349. (2015).
- 25) 権藤恭之. 学際研究による老年社会科学からの健康長寿へのアプローチ. 日本老年医学会雑誌 Vol. 51 No. 1 p. 35-38. (2014).
- 26) Shimada H, Makizako H, Doi T, Tsutsumimoto K, Suzuki T. Incidence of disability in frail older persons with or without slow walking speed. J Am Med Dir Assoc, in press. (査読あり)
- 27) Senda K, Nishimura K. Integrated care to optimize the management of sarcopaenia and chronic obstructive pulmonary disease. Austin Journal of Pulmonary & Respiratory Medicine 2014; 1: 2.
- 28) 千田一嘉. フレイルとCOPD. フレイルと疾患. フレイル 超高齢社会における最重要課題と予防戦略, 医歯薬出版, 99-105, 2014
- 29) 千田一嘉. COPDとサルコペニア. MB Med Reha 2014; 170: 69-75.
- 30) Akune T, Muraki S, Oka H, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Yoshimura N: Exercise habits during middle age are associated with lower prevalence of sarcopenia: the ROAD study. Osteoporos Int 25: 1081-1088, 2014
- 31) Akune T, Muraki S, Oka H, Tanaka S, Kawaguchi H, Tokimura F, Yoshida H, Suzuki T, Nakamura K, Yoshimura N: Incidence of certified need of care in the long-term care insurance system and its risk factors in the elderly of Japanese population-based cohorts: The ROAD study. Geriatr Gerontol Int 14: 695-701, 2014

- 32) Akune T, Muraki S, Oka H, Tanaka S, Kawaguchi H, Tokimura F, Yoshida H, Suzuki T, Nakamura K, Yoshimura N: Association of physical activities of daily living with the incidence of certified need of care in the long-term care insurance system of Japan: the ROAD study. *J Orthop Sci* 19: 489-496, 2014
- 33) Muraki S, Akune T, Nagata K, Ishimoto Y, Yoshida M, Tokimura F, Tanaka S, Oka H, Kawaguchi H, Nakamura K, Yoshimura N: Association of knee osteoarthritis with onset and resolution of pain and physical functional disability: The ROAD Study. *Mod Rheumatol* 24(6):966-973, 2014
- 34) Yoshimura N, Muraki S, Oka H, Nakamura K, Kawaguchi H, Tanaka S, Akune T: Serum levels of 25-hydroxyvitamin D and occurrence of musculoskeletal diseases, such as osteoporosis, knee osteoarthritis and lumbar spondylosis: A three-year follow-up of the road study. *Osteoporos Int* 26:151-161, 2015
- 35) Kagotani R, Yoshida M, Muraki S, Oka H, Hashizume H, Yamada H, Enyo Y, Nagata K, Ishimoto Y, Teraguchi M, Tanaka S, Nakamura K, Kawaguchi H, Akune T, Yoshimura N: Prevalence of diffuse idiopathic skeletal hyperostosis (DISH) of whole spine and its association with lumbar spondylosis and knee osteoarthritis: The ROAD Study. *J Bone Miner Metab* 33: 221-229, 2015
- 36) Muraki S, Akune T, Ishimoto Y, Nagata K, Yoshida M, Tokimura F, Tanaka S, Oka H, Kawaguchi H, Nakamura K, Yoshimura N: Does osteophytosis at the knee predict health-related quality of life decline? A 3-year follow-up of the ROAD study. *Clin Rheumatol*, in press
- 37) Yoshimura N, Muraki S, Oka H, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T: Mutual associations among musculoskeletal diseases and metabolic syndrome components: A 3-year follow-up of the ROAD study: A 3-year follow-up of the ROAD study. *Mod Rheumatol*, in press
- 38) Teraguchi M, Yoshimura N, Muraki S, Yamada H, Oka H, Minamide A, Nakagawa Y, Ishimoto Y, Nagata K, Kagotani R, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T, Yoshida M: The association of combination of disc degeneration, endplate signal change, and Schmorl's node with low back pain in a large population study: the Wakayama Spine Study. *The Spine Journal*, in press
- 39) Muraki S, Akune T, En-yo Y, Yoshida M, Suzuki T, Yoshida H, Ishibashi H, Tokimura F, Yamamoto S, Tanaka S, Nakamura K, Kawaguchi H, Oka H, Yoshimura N: Joint space narrowing, body mass index and knee pain: The ROAD study. *Osteoarthritis Cartilage*, in press
- 40) Iwasa H, Kai I, Yoshida Y, Suzuki T, Kim H, Yoshida H. Information processing speed and 8-year mortality among community-dwelling elderly Japanese. *J Epidemiol.* 24(1), 52-9, 2014.
- 41) Matsubayashi K. Geriatric Issues from the Standpoint of Human Evolution. *Geriatr Gerontolo Int.* 2014, 14(4):731-4. .
- 42) Otsuka K, Yamanaka T, Oinuma S, Cornelissen G, Sasaki J, Yamanaka G, Okumiya K, Matsubayashi K. Comprehensive Geriatric Assessment reveals sleep disturbances in community-dwelling elderly associated with even slight cognitive decline. *J Am Geriatr Soc*, 2014, Mar ;62(3):571-573.
- 43) Otsuka K, Coenlissen G, Yamanaka T, Oinuma S, Sakai J Yamada G, Okumiya K, Matsubayashi K. Time estimation predicts an improvement of cognitive function in elderly community-dwelling people. *J Am Geriatr Soc*, 62 (5) :974-976, 2014.
- 44) Imai H, Yamanaka G, Ishimoto Y, Kimura Y, Fututomi E, Chen WL, Matsuoka S, Tanaka M, Sakamoto R, Wada T, Okumiya K, Otsuka L, Matsubayashi K. Factor

structures of a Japanese version of the Geriatric Depression Scale and its correlation with the quality of life and functional ability. *Psychiatric Research*, 2014, Feb 28, 215 (2): 460-465.

- 45) Fujisawa M, Udono T, Nogami E, Hirosawa N, Morimura N, Saito A, Seres M, Teramoto K, Nagano K, Mori Y, Uesaka H, Nasu K, Tomonaga M, Idani G, Hirata S, Tsuruyama T, Matsubayashi K. A case of maxillary sarcoma in a chimpanzee (*Pan troglodytes*). *Journal of Medical Primatology*, 2014 (in press), doi:10.1111/jmp.12086
- 46) Matsubayashi K & Okumiya K. Global Environmental Issues from the Viewpoints of Medical Surveys on Non-Caucasian Highlanders in the World. *Himalayan Study Monographs*, 2014, 15:2-12.
- 47) Okumiya K, Wada T, Fujisawa M, Ishine M, Garcia Del Saz, Hirata Y, Kuzuhara S, Kokubo Y, Seguchi H, Sakamoto R, Manuba I, WatofaP, Rantetampang AL, Matsubayashi K Amyotrophic Lateral Sclerosis and Parkinsonism in Papua, Indonesia: 2001-2012 Survey Results. *BMJ Open* 2014, April 16;4(4):e004353. Doi:10.1136/bmjopen-2013-004353.
- 48) Wada T, Imai H, Okumiya K, Fukutomi E, Ishimoto Y, Kimura Y, Chen WL, Sakamoto R, Fujisawa M, Matsubayashi K. Preferred feeding methods for dysphagia due to end-stage dementia among community-dwelling elderly people in Japan. *J Am Geriatr Soc*, 2014, 62 (9): 1810-1811.
- 49) Sakamoto R, Okumiya K, Ohno A, Ge RL, Matsubayashi K. Detection of *Legionella Pneumophila* at High Altitude in Tibetan Plateau. *High Alt Med Biol* 2014, June 15 (2):209-10, doi: 10.1089/ham.2013.1152.
- 50) Imai H, Furukawa TA, Kasahara Y, Ishimoto Y, Kimura Y, Fututomi E, Chen WL, Tanaka M, Sakamoto R, Wada T, Fujisawa M, Okumiya K, Matsubayashi K. Ipsative imputation for a 15-item Geriatric Depression Scale in community-dwelling elderly people. *Psychogeriatrics*, 2014, 14(3):182-7.
- 51) Kuroiwa Y, Miyano I, Nishinaga M, Takata J, Shimizu Y, Okumiya K, Matsubayashi K, Ozawa T, Kitaoka H, Doi Y, Yasuda M. The association between level of brachial-ankle pulse wave velocity and onset of ADL impairment in community-dwelling older individuals. *Geriatr Gerontolo Int.* (in press) .
- 52) Okumiya K, Sakamoto R, Fujisawa M, Wada T, Chen WL, Imai H, Ishimoto Y, Kimura Y, Fututomi E, Sasiwongsaroj K, Kato E, Tanaka M, Hirosaki M, Kasahara Y, Nakatsuka M, Ishine M, Yamamoto N, Otsuka K, Matsubayashi K. The effect of early diagnosis and lifestyle modification on functional activities in the community-dwelling elderly with glucose intolerance in 5-year longitudinal study. *J Am Geriatr Soc* (in press).
- 53) Fukutomi E, Okumiya K, Wada T, Sakamoto R, Ishimoto Y, kimura Y, Chen WL, Imai H, Fijisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K. Relationship between each category of 25-item frailty risk assessment (Kihon Checklist) and newly certified elderly under Long Term Care Insurance: a 24-month folloe-up syudy in a rural community in japan. *Geriatr Gerontolo Int.* (in press)
- 54) Sasiwongsaroj K, Wada T, Okumiya K, Imai H, Ishimoto Y, Sakamoto R, Fujisawa M, Kimura Y, Chen WL, Fukutomi E, Matsubayashi K. Buddhist Social Networks and Health in Old Age:A Study in Central Thailand. *Geriatr Gerontolo Int.* (in press)
- 55) Kikuchi T, Okajima K, Cornelissen G, Sasaki J, Oimuma S, Yamanaka G,

- Okumiya K, Matsubayashi K, Yamanaka T, Otsuka K. Community-based comprehensive geriatric assessment of short-term and long-term predictors of cognitive decline in the elderly. *J Am Geriatrics Soc*, 2014 (in press)
- 56) Imai H, Chen WL, Fukutomi E, Okumiya K, Wada T, Sakamoto R, Fujisawa M, Ishimoto Y, Kimura Y, Chang CM, Matsubayashi K. Depression and subjective economy among elderly people in Asian communities: Japan, Taiwan, and Korea. *Arch Gerontol Geriatr*. 2014 Nov 13. pii: S0167-4943(14)00204-0. doi: 10.1016/j.archger.2014.11.003. (in press)
- 57) Sakamoto R, Okumiya K, Ishine M, Wada T, Fujisawa M, Imai H, Ishimoto Y, Kimura Y, Fukutomi E, Chen WL, Sasiwongsaroj K, Kato E, Otsuka K, Matsubayashi K. Predictors of difficulty in performing basic activities of daily living among old-old: a two year community-based cohort study. *Geriatr Gerontol Inten*, 2015 (in press).
- 58) Nishiguchi S, Yamada M, Fukutani N, Adachi D, Tashiro Y, Hotta T, Morino S, Shirooka H, Nozaki Y, Hirata H, Yamaguchi M, Arai H, Tsuboyama T, Aoyama T. Differential Association of Frailty With Cognitive Decline and Sarcopenia in Community-Dwelling Older Adults. *J Am Med Dir Assoc*. 2014 Sep 20. pii: S1525-8610(14)00469-1. doi: 10.1016/j.jamda.2014.07.010. [Epub ahead of print]

#### 平成 27 年度

- 1) Yamada M, Arai H. Predictive Value of Frailty Scores for Healthy Life Expectancy in Community-Dwelling Older Japanese Adults. *J Am Med Dir Assoc*. 2015 Nov 1;16(11):1002.e7-1002.e11.
- 2) Shibasaki K, Yamada S, Ouchi Y, Akishita M, Ogawa S\*. The effect of the rehabilitation on the recovery of the sympathetic nervous activity measured by heart rate variability in frail elderly. *J Am Geriatr Soc* (*in press*) (\*correspondence)
- 3) Akiyoshi T, Ota H, Iijima K, Son BK, Kahyo T, Setou M, Ogawa S, Ouchi Y, Akishita M. A novel organ culture model of aorta for vascular calcification. *Atherosclerosis* 244:51-58, 2016
- 4) Tamiya H, Yasunaga H, Matsui H, Fushimi K, Akishita M, Ogawa S\*. Comparison of short-term mortality and morbidity between parenteral and enteral nutrition for adults without cancer: a propensity-matched analysis using a national inpatient database. *Am J Clin Nutr*. 102:1222-1228, 2015 (\*correspondence)
- 5) Yakabe M, Ogawa S\*, Akishita M. Clinical manifestations and pathophysiology of sarcopenia. *RNA and Transcription* 1:10-17, 2015
- 6) Shibasaki K, Ogawa S\*, Yamada S, Iijima K, Eto M, Kozaki K, Toba K, Ouchi Y, Akishita M. Favorable effect of sympathetic nervous activity on rehabilitation outcomes in frail elderly. *J. Am. Med. Dir. Assoc*. 16:799e7-799e12, 2015
- 7) Yakabe M, Ogawa S\*, Ota H, Iijima K, Eto M, Ouchi Y, Akishita M. Beta-hydroxy-beta-methylbutyrate inhibits lipopolysaccharide-induced interleukin-6 expression by increasing protein phosphatase-1 expression. *RNA and Transcription* 1:1-5, 2015
- 8) Ota H, Ogawa S, Ouchi Y, Akishita M. Protective effects of NMDA receptor antagonist, memantine, against senescence of PC12 cells: a possible role of nNOS and combined effects with donepezil. *Exp Gerontol*. 72:109-116, 2015
- 9) Ishii S, Ogawa S, Akishita M. The state of health in older adults in Japan: trends in disability, chronic medical conditions and mortality. *PLOS ONE* 10:e0139639, 2015

- 10) Tamiya H, Yasunaga H, Matsui H, Fushimi K, Ogawa S<sup>★</sup>, Akishita M. Hypnotics and the occurrence of bone fractures in hospitalized dementia patients: a matched case-control study using a national inpatient database. *PLOS ONE*10:e0129366, 2015
- 11) Yamada Y, Eto M, Ito Y, Mochizuki S, Son BK, Ogawa S, Iijima K, Kaneki M, Kozaki K, Toba K, Akishita M, Ouchi Y. Suppressive role of PPAR $\gamma$ -regulated endothelial nitric oxide synthase in adipocyte lipolysis. *PLOS ONE* 10:e0136597, 2015
- 12) 神崎恒一：認知症と骨・運動器の障害. *医学のあゆみ* 253(9) : 843-849, 2015.
- 13) Shibasaki K, Ogawa S, Yamada S, Iijima K, Eto M, Kozaki K, Toba K, Ouchi Y, Akishita M : Favorable effect of sympathetic nervous activity on rehabilitation outcomes in frail elderly. *JAMDA* 16(9) : 799, 2015.
- 14) 神崎恒一：認知症高齢者の転倒と骨折. *Dementia Japan* 29(4) : 560-570, 2015.
- 15) Kumiko Nagai, Hitomi Koshiba, Shigeki Shibata, Toshifumi Matsui and Koichi Kozaki : Correlation between the serum eicosapentanoic acid-to-arachidonic acid ratio and the severity of cerebral white matter hyperintensities in older adults with memory disorder. *Geriatr Gerontol Int* 15 (Suppl. 1) : 48-52, 2015.
- 16) Kumiko Nagai, Hitomi Koshiba, Masamichi Tanaka, Toshifumi Matsui, Koichi Kozaki. Unsteady gait is a determinant for progression in frailty among the elderly. *Geriatr Gerontol Int*. In press.
- 17) 神崎恒一：2章総論 2)加齢と転倒・骨折. *医療・介護スタッフのための高齢者の転倒・骨折予防～転ばぬ先の生活指導～*. 編集 萩野浩. 大阪, 医薬ジャーナル社, 2015. 25-33.
- 18) 田中政道, 神崎恒一：. 認知症とフレイル. *サルコペニアとフレイル*. 編集 荒井秀典. 大阪, 医薬ジャーナル社, 2015. 121-132.
- 19) Kim H, Yoshida H, Hu X, Saito K, Yoshida Y, Kim M, Hirano H, Kojima N, Hosoi E, Suzuki T. Association between self-reported urinary incontinence and musculoskeletal conditions in community-dwelling elderly women: A cross-sectional study. *Neurourol Urodyn*. 34(4):322-326, 2015
- 20) 桜井良太、河合恒、深谷太郎、吉田英世、金憲経、平野浩彦、鈴木宏幸、大淵修一、藤原佳典：地域在住高齢者における自転車関連事故発生率とその傷害率：潜在的傷害事故の把握に向けた検討. *日本公衛誌*. 62(5):251-258, 2015
- 21) Kojima N, Kim M, Saito K, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Obuchi S, Shimada H, Suzuki T, Kim H. Lifestyle-related factors contributing to decline in knee extension strength among elderly women: A cross-sectional and longitudinal cohort study. *PLoS One*. 10(7):e0132523, 2015
- 22) Kim M, Yoshida H, Sasai H, Kojima N, Kim H: Association between objectively measured sleep quality and physical function among community-dwelling oldest old Japanese: A cross-sectional study. *Geriatr Gerontol Int*. 15(8):1040-1048, 2015
- 23) Shimizu Y, Kim H, Yoshida H, Shimada H, Suzuki T. Serum 25-hydroxyvitamin D level and risk of falls in Japanese community-dwelling elderly women: a 1-year follow-up study. *Osteoporos Int*. 26(8):2185-92, 2015
- 24) Murakami M, Hirano H, Watanabe Y, Sakai K, Kim H, Katakura A. Relationship between chewing ability and sarcopenia in Japanese community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int*. 15(8):1007-12, 2015
- 25) Suzuki H, Kawai H, Hirano H, Yoshida H, Ihara K, Kim H, Chaves PH, Minami Y, Yasunaga M, Obuchi S, Fujiwara Y. One-year change in the Japanese version of the Montreal Cognitive Assessment performance and related predictors in community-dwelling older adults. *J Am Geriatr Soc*. 63(9):1874-1879, 2015
- 26) Kim M. Isotemporal substitution analysis of accelerometer-derived sedentary behavior, physical activity time, and physical function in older women: A

- preliminary study. *Exercise Science*. 24(4):373-381, 2015
- 27) Kim M, Sasai H, Kojima N, Kim H. Objectively measured night-to-night sleep variations are associated with body composition in very elderly women. *J Sleep Res*. 24(6):639-647, 2015
- 28) 金憲経：これからの介護予防の考え方と運動. *みんなのスポーツ* 414: 12-14, 2015
- 29) 金憲経：カテキンとサルコペニア予防. *医療ジャーナル* 51(9):97-102, 2015
- 30) 金憲経：サルコペニア予防のための効果的な取り組み. *百歳万歳* 37(12):60-62, 2015
- 31) Kim H, Suzuki T, Saito K, Kojima N, Hosoi E, Yoshida H. Long-term effects of exercise and amino acid supplementation on muscle mass, physical function and falls in community-dwelling elderly Japanese sarcopenic women: A 4-year follow-up study. *Geriatr Gerontol Int*, 16: 175-181, 2016
- 32) 金憲経：サルコペニア—概念、定義と高齢者診療における意義. *日医雑誌*. 144(11):2241-2245, 2016
- 33) 金憲経：転倒予防にかかわる最近の展開. *Loco Cure*. 2(1):24-29, 2016
- 34) Kim H, Hirano H, Eda Hiro A, Ohara Y, Watanabe Y, Kojima N, Kim M, Hosoi E, Yoshida Y, Yoshida H, Shinkai S. Sarcopenia: Prevalence and associated factors based on different suggested definitions in community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int*, In Press, 2016
- 35) Ryuno H, Kamide K, Gondo Y, Nakama C, Oguro R, Kabayama M, Kawai T, Kusunoki H, Yokoyama S, Imaizumi Y, Takeya M, Yamamoto H, Takeda M, Takami Y, Itoh N, Yamamoto K, Takeya Y, Sugimoto K, Nakagawa T, Ikebe K, Inagaki H, Masui Y, Ishizaki T, Takayama M, Arai Y, Takahashi R, Rakugi H. Differences in the Association between High Blood Pressure and Cognitive Functioning among the General Japanese Population Aged 70 and 80 Years: The SONIC Study. *Hypertens Res* 2016. (in press)
- 36) Morris BJ, Chen R, Donlon TA, Evans DS, Tranah GJ, Parimi N, Ehret GB, Newton-Cheh C, Seto T, Willcox DC, Masaki KH, Kamide K, Ryuno H, Oguro R, Nakama C, Kabayama M, Yamamoto K, Sugimoto K, Ikebe K, Masui Y, Arai Y, Ishizaki T, Gondo Y, Rakugi H, Willcox BJ. Association analysis of FOXO3 Longevity Variants with Blood Pressure and Essential Hypertension. *Am J Hypertens* 2015. (in press)
- 37) Takeshita H, Ikebe K, Gondo Y, Inagaki H, Masui Y, Inomata C, Mihara Y, Uota M, Matsuda K, Kamide K, Takahashi R, Arai Y, Maeda Y. Association of occlusal force with cognition in independent older Japanese people. *J Dent Res* 2016 (in press)
- 38) Yoshinaka M, Ikebe K, Uota M, Ogawa T, Okada T, Inomata C, Takeshita H, Mihara Y, Gondo Y, Masui Y, Kamide K, Arai Y, Takahashi R, Maeda Y. Age and sex differences in the taste sensitivity of young adult, young-old and old-old Japanese. *Geriatr Gerontol Int* 2015 (in press).
- 39) Takeshita H, Ikebe K, Kagawa R, Okada T, Gondo Y, Nakagawa T, Ishioka Y, Inomata C, Tada S, Matsuda K, Kurushima Y, Enoki K, Kamide K, Masui Y, Takahashi R, Arai Y, Maeda Y. Association of personality traits with oral health-related quality of life independently of objective oral health status: A study of community-dwelling elderly Japanese. *J Dent* 43:342-349:2015.
- 40) 小園麻里菜, 権藤恭之, 小川まどか, 石岡良子, 増井幸恵, 中川 威, 田渕 恵, 立平起子, 池邊一典, 神出 計, 新井康通, 石崎達郎, 高橋龍太郎. 余暇活動と認知機能との関連—地域在住高齢者を対象として— *老年社会科学* 2016. (in press)
- 41) Shimada H, Makizako H, Doi T, Tsutsumimoto K, Suzuki T. Incidence of disability in frail older persons with or without slow walking speed. *J Am Med Direct*, 16(8): 690-696, 2015.

- 42) Shimada H, Makizako H, Lee S, Doi T, Tsutsumimoto K, Harada K, Hotta R, Bae S, Nakakubo S, Suzuki, T. Impact of cognitive frailty on daily activities in older persons. *J. Nutr. Health Aging*. in press.
- 43) Senda K, Satake S, Kondo I, Nishikawa M, Tokuda H, Miura H, Endo H. Frailty in Japanese elder patients with chronic obstructive pulmonary disease: a two-year observation at outpatient clinic for comprehensive pulmonary rehabilitation. *J Frailty Aging* 4: S64, 2015.
- 44) Satake S, Senda K, Hong YJ, Miura H, Endo H, Sakurai T, Kondo I and Toba K. Validity of the Kihon checklist for assessing frailty status. *Geriatr Gerontol Int* 2015. Epub ahead
- 45) 千田一嘉. 慢性閉塞性肺疾患で入退院を繰り返さないコツ. *Medical Alliance* 1:85-7, 2015.
- 46) 千田一嘉. 高齢者におけるリハビリテーションの阻害因子とそれに対する一般的対応. *Geriatric Medicine 老年医学* 53:535-41, 2015.
- 47) 千田一嘉. COPD 治療におけるフレイルの重要性. *Modern Physician* 35: 865-869, 2015.
- 48) 千田一嘉. COPD とフレイル, *フレイルハンドブック, ライフサイエンス*, 69-72, 2016.
- 49) Yoshimura N, Muraki S, Oka H, Nakamura K, Kawaguchi H, Tanaka S, Akune T: Serum levels of 25-hydroxyvitamin D and occurrence of musculoskeletal diseases, such as osteoporosis, knee osteoarthritis and lumbar spondylosis: A three-year follow-up of the ROAD study. *Osteoporos Int* 26:151-161, 2015.
- 50) Kagotani R, Yoshida M, Muraki S, Oka H, Hashizume H, Yamada H, Enyo Y, Nagata K, Ishimoto Y, Teraguchi M, Tanaka S, Nakamura K, Kawaguchi H, Akune T, Yoshimura N: Prevalence of diffuse idiopathic skeletal hyperostosis (DISH) of whole spine and its association with lumbar spondylosis and knee osteoarthritis: The ROAD Study. *J Bone Miner Metab* 33: 221-229, 2015.
- 51) Teraguchi M, Yoshimura N, Muraki S, Yamada H, Oka H, Minamide A, Nakagawa Y, Ishimoto Y, Nagata K, Kagotani R, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T, Yoshida M: The association of combination of disc degeneration, endplate signal change, and Schmorl's node with low back pain in a large population study: the Wakayama Spine Study. *Spine J* 15:622-628, 2015.
- 52) Yoshimura N, Muraki S, Oka H, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T: Mutual associations among musculoskeletal diseases and metabolic syndrome components: A 3-year follow-up of the ROAD study. *Mod Rheumatol* 25:38-48, 2015.
- 53) Muraki S, Akune T, Ishimoto Y, Nagata K, Yoshida M, Tokimura F, Tanaka S, Oka H, Kawaguchi H, Nakamura K, Yoshimura N: Does osteophytosis at the knee predict health-related quality of life decline? A 3-year follow-up of the ROAD study. *Clin Rheumatol* 34: 1589-1597, 2015.
- 54) Muraki S, Akune T, En-yo Y, Yoshida M, Suzuki T, Yoshida H, Ishibashi H, Tokimura F, Yamamoto S, Tanaka S, Nakamura K, Kawaguchi H, Oka H, Yoshimura N: Joint space narrowing, body mass index and knee pain: The ROAD study. *Osteoarthritis Cartilage* 23: 874-881, 2015.
- 55) Yoshimura N, Musaki S, Oka H, Tanaka S, Ogata T, Kawaguchi H, Akune T, Nakamura K: Association between new indices in the locomotive syndrome risk test and decline in mobility: third survey of the ROAD study. *J Orthop Sci* 20:896-905, 2015.
- 56) Yoshimura N, Muraki S, Oka H, Nakamura K, Kawaguchi H, Tanaka S, Akune T: Factors affecting changes in the serum levels of 25-hydroxyvitamin D: A 3-year follow-up of the ROAD study. *Osteoporos Int* 26:151-161, 2015.
- 57) Muraki S, Akune T, Teraguchi M, Kagotani R, Asai Y, Yoshida M, Tokimura F, Tanaka

- S, Oka H, Kawaguchi H, Nakamura K, Yoshimura N: Quadriceps muscle strength, radiographic knee osteoarthritis and knee pain: the ROAD study. *BMC Musculoskeletal Disord* . 2015 Oct 16;16:305. D
- 58)Iidaka T, Muraki S, Akune T, Oka H, Kodama R, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Yoshimura N: Prevalence of radiographic hip osteoarthritis and its association with hip pain in Japanese men and women: The ROAD study. *Osteoarthritis Cartilage* 24:117-123, 2016.
- 59)Kodama R, Muraki S, Oka H, Iidaka T, Teraguchi M, Kagotani R, Asai Y, Hashizume H, Yoshida M, Morizaki Y, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T, Yoshimura N: Prevalence of hand osteoarthritis and its relationship to hand pain and grip strength: The third survey of the ROAD Study. *Mod Rheumatol*, in press
- 60)Teraguchi M, Yoshimura N, Hashizume H, Muraki S, Yamada H, Oka H, Minimide A, Nakagawa H, Ishimoto Y, Nagata K, Kagotani R, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T, Yoshida M: Metabolic syndrome components are associated with intervertebral disc degeneration: the Wakayama Spine Study. *PLoS One*, in press
- 61)Kuroiwa Y, Miyano I, Nishinaga M, Takata J, Shimizu Y, Okumiya K, Matsubayashi K, Ozawa T, Kitaoka H, Doi Y, Yasuda M. The association between level of brachial-ankle pulse wave velocity and onset of ADL impairment in community-dwelling older individuals. *Geriatr Gerontolo Int*. 2015 Jul;15(7):840-847. Doi:10.1111/ggi.12356. Epub 2014 Nov 19.
- 62)Okumiya K, Sakamoto R, Fujisawa M, Wada T, Chen WL, Imai H, Ishimoto Y, Kimura Y, Fututomi E, Sasiwongsaroj K, Kato E, Tanaka M, Hirotsuki M, Kasahara Y, Nakatsuka M, Ishine M, Yamamoto N, Otsuka K, Matsubayashi K. The effect of early diagnosis and lifestyle modification on functional activities in the community-dwelling elderly with glucose intolerance in 5-year longitudinal study. *J Am Geriatr Soc*. 2015 Jan;63(1):190-2. doi: 10.1111/jgs.13225.
- 63)Fukutomi E, Okumiya K, Wada T, Sakamoto R, Ishimoto Y, kimura Y, Chen WL, Imai H, Fijisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K. Relationship between each category of 25-item frailty risk assessment (Kihon Checklist) and newly certified elderly under Long Term Care Insurance: a 24-month folloe-up syudy in a rural community in japan. *Geriatr Gerontolo Int*. 2015, Jul;15(7):864-71. Doi:10.1111/ggi.12360. Epub 2014 Oct 15.
- 64)Sasiwongsaroj K, Wada T, Okumiya K, Imai H, Ishimoto Y, Sakamoto R, Fujisawa M, Kimura Y, Chen WL, Fukutomi E, Matsubayashi K. Buddhist Social Networks and Health in Old Age:A Study in Central Thailand. *Geriatr Gerontolo Int*. (in press)
- 65)Kikuchi T, Okajima K, Cornelissen G, Sasaki J, Oimuma S, Yamanaka G, Okumiya K, Matsubayashi K, Yamanaka T, Otsuka K. Community-based comprehensive geriatric assessment of short-term and lomg-term predictors of cognitive decline in elderly adults. *J Am Geriatr Soc*, 2015, 65(5):1031-3. Doi:10.1111/jgs.13426.
- 66)Imai H, Chen WL, Fukutomi E, Okumiya K, Wada T, Sakamoto R, Fujisawa M, Ishimoto Y, Kimura Y, Chang CM, Matsubayashi K. Depression and subjective economy among elderly people in Asian communities: Japan, Taiwan, and Korea. *Arch Gerontol Geriatr*. 2014 Nov 13. pii: S0167-4943(14)00204-0. doi: 10.1016/j.archger.2014.11.003. (in press)
- 67)Sakamoto R, Okumiya K, Ishine M, Wada T, Fujisawa M, Imai H, Ishimoto Y, Kimura Y, Fukutomi E, Chen WL, Sasiwongsaroj K, Kato E, Otsuka K, Matsubayashi K. Predictors of difficulty in performing basic activities of daily

- living among old-old: a two year community-based cohort study. *Geriatr Gerontol Int*. 2015 Feb 6. doi:10.1111/ggi.12462.
- 68) Okumiya K, Fujisawa M, Sakamoto R, Wada T, Chen WL, Imai H, Ishimoto Y, Kimura Y, Fukutomi E, Sasiwongsaroj K, Kato E, Tanaka M, Hirotsuki M, Kasahara Y, Nakatsuka M, Nose M, Ishine M, Yamamoto N, Otsuka K, Matsubayashi K. The effect of early diagnosis and lifestyle modification on depressive symptoms in the community-dwelling elderly with glucose intolerance in 5-year longitudinal study. *J Am Geriatr Soc*. 2015 Feb;63(2):393-5. doi: 10.1111/jgs.13269.
- 69) Norboo T, Stobdan T, Tsering N, Angchuk N, Tsering P, Ahmed I, Chorol T, Sharma VK, Reddy P, Singh SB, Kimura K, Sakamoto R, Fukutomi E, Ishikawa M, Suwa K, Kosaka Y, Nose M, Yamaguchi T, Tsukihara T, Matsubayashi K, Otsuka K, Okumiya K. Prevalence of hypertension at high altitude: cross sectional survey in Ladakh, Northern India 2007-2011. *BMJ Open* (in press)
- 70) Chen W, Okumiya K, Wada T, Sakamoto R, Imai H, Ishimoto Y, Kimura Y, Fukutomi E, Fujisawa M, Shih HI, Chang CM, Matsubayashi K. Social cohesion and health in old age: a study in southern Taiwan. *Int Psychogeriatr*, 2015, 27(11):1903-11.
- 71) Imai H, Okumiya K, Fukutomi E, Wada T, Ishimoto Y, Kimura Y, Chen WL, Tanaka M, Sakamoto R, Fujisawa M, Matsubayashi K. Association between risk perception, and depression in community-dwelling elderly people in Japan. *Psychiatry Res*. 2015 Mar 11. pii: S0165-1781(15)00111-0. doi:10.1016/j.psychres.2015.03.002. (in Press)
- 72) Iwasaki M, Kimura Y, Yoshihara A, Ogawa H, Yamaga T, Wada T, Sakamoto R, Ishimoto Y, Fukutomi E, Chen WL, Imai H, Fujisawa M, Okumiya K, Manz MC, Ansai T, Miyazaki H, Matsubayashi K. Low dietary diversity among older Japanese adults with impaired dentition. *Journal of Dentistry and Oral Hygiene*, 2015 7(4): 40-43. doi: 10.5897/JDOH2014.0142.
- 73) Okumiya K, Sakamoto R, Ishikawa M, Kimura Y, Fukutomi E, Ishimoto Y, Chen WL, Imai H, Kato E, Kasahara Y, Fujisawa M, Wada T, Ishine M, Kosaka Y, Nose M, Yamaguchi Y, Tsukihara T, Otsuka K, Norboo T, Matsubayashi K. The J-curve association of glucose intolerance with hemoglobin and ferritin levels at high altitude. *J Am Geriatr Soc*. 2016 Jan;64(1):207-10. doi: 10.1111/jgs.13915.
- 74) Imai H, Furukawa TA, Okumiya K, Wada T, Fukutomi E, Sakamoto R, Fujisawa M, Ishimoto Y, Kimura Y, Chen WL, Tanaka M, Matsubayashi K. Postcard intervention for depression in community-dwelling older adults: a randomized controlled trial. *Psychiatry Res*. 2015 Jun 11. pii:S0165-1781(15)00341-8. Doi:10.1016/j.psychres.2015.05.054. [Epub ahead of print]
- 75) Ishikawa M, Yamanaka G, Yamamoto N, Nalaoka T, Okumiya K, Matsubayashi K, Otsuka K, Sakura H. Depression and Altitude: Cross-sectional community-based study among elderly high-altitude residents in the Himalayan regions. *Cult Med Psychiatry*, 2015 Jul 11. (Epub ahead of print)
- 76) Sakamoto R, Okumiya K, Wang H, Dai Q, Fujisawa M, Wada T, Imai H, Kimura Y, Ishimoto Y, Fukutomi E, Chen W, Sasiwongsaroj K, Kato E, Ge RL, Matsubayashi K. Oxidized Low Density Lipoprotein Among the Elderly in Qinghai-Tibet Plateau. *Wilderness Environ Med*. 2015 Jul 24. pii: S1080-6032(15)00141-6. doi: 10.1016/j.wem.2015.03.025. [Epub ahead of print]
- 77) Chang NY, Kimura Y, Ishimoto Y, Wada T, Fukutomi E, Chen WL, Sakamoto R, Fujisawa F, Otsuka K, Okumiya K, Matsubayashi K. Relationship between Oral Dysfunction, Physical Disability, and Depressive Mood in the Community-dwelling Elderly in Japan.

J Am Geriatr Soc, 2015, in press.

- 78) Shimizu Y, Kim H, Yoshida H, Shimada H, Suzuki T. Serum 25-hydroxyvitamin D level and risk of falls in Japanese community-dwelling elderly women: a 1-year follow-up study. *Osteoporos Int*. 2015 Aug;26(8):2185-92.
- 79) Arai H, Satake S. English translation of Kihon Checklist. *Geriatr Gerontol Int* 2015 Apr; 15(4): 518-9. Doi: 10. 1111/ggi.12397 PMID: 25828791

## 2. 学会発表

平成 25 年度

- 1) 山口潔, 秋下雅弘, 斉藤洋美, 亀山祐美, 大田秀隆, 小島太郎, 小川純人, 大内尉義: Excel を利用した高齢者総合評価の標準化システム開発の試み. 第 55 回日本老年医学会学術集会. 2013. 6. 6, 大阪
- 2) 大田秀隆, 亀山祐美, 石井伸弥, 山口潔, 東浩太郎, 山口泰弘, 小川純人, 秋下雅弘, 大内尉義: 認知症患者における認知機能と血清カルニチン濃度の関連. 第 55 回日本老年医学会学術集会. 2013. 6. 6, 大阪
- 3) 矢可部満隆, 小川純人, 大田秀隆, 飯島勝矢, 江頭正人, 秋下雅弘, 大内尉義: 後肢懸垂モデルマウスにおける HMB (beta-hydroxy-beta-methylbutyrate) の筋萎縮抑制効果の検討. 第 55 回日本老年医学会学術集会. 2013. 6. 6, 大阪
- 4) 関根里恵, 澤田実佳, 小川純人, 矢可部満隆, 秋下雅弘, 大内尉義: 高齢入院患者における BIA 法に基づくエネルギー必要量ならびに低栄養の評価. 第 55 回日本老年医学会学術集会. 2013. 6. 6, 大阪
- 5) 澤田実佳, 小川純人, 矢可部満隆, 秋下雅弘, 関根里恵, 大内尉義: 高齢入院患者の CGA と体組成・栄養状態との関連性および性差. 第 55 回日本老年医学会学術集会. 2013. 6. 6, 大阪
- 6) Akiyoshi T, Iijima K, Ota H, Ogawa S, Akishita M, Ouchi Y: New insights in mechanisms of vascular smooth muscle cell calcification using an advantageous approach in mouse ex-vivo model. 第 45 回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 2013. 7. 18-19, 東京
- 7) 佐塚まなみ, 小島太郎, 宮原潤也, 宮野姿子, 田儀道, 亀山祐美, 山口泰弘, 小川純人, 秋下雅弘: Evans 症候群を発症した高齢認知症女性の 1 例. 第 58 回日本老年医学会関東甲信越地方会. 2013. 9. 14, 東京
- 8) 小川純人: [Hot Topics] 肥満症と認知症. 第 34 回日本肥満学会. 2013. 10. 11, 東京
- 9) 小川純人: 地域における骨粗鬆症検診と予防対策. 第 15 回日本骨粗鬆症学会. 2013. 10. 13, 大阪
- 10) 小川純人: 高齢労働者の健康管理. 日本産業衛生学会関東地方会第 263 回例会. 2013. 11. 16, 東京
- 11) 小川純人: [シンポジウム] ロコモティブシンドロームの管理と予防. 第 55 回日本人間ドック学会学術集会. 2014. 9. 4, 福岡
- 12) 山賀亮之介, 加瀬義高, 宮野姿子, 大田秀隆, 山口泰弘, 小川純人, 秋下雅弘. 複数薬剤に DLST 陽性を示し、薬剤中止にて寛解した薬剤性好酸球性胸水の 1 例. 第 59 回日本老年医学会関東甲信越地方会. 2014. 3. 15, 千葉
- 13) 加瀬義高, 桑名梨里子, 山賀亮之介, 木棚究, 高山賢一, 大田秀隆, 山口泰弘, 小川純人, 秋下雅弘. 上部消化管内視鏡にて同定困難な通過障害が食道造影で明らかになった高齢女性の 2 症例. 第 59 回日本老年医学会関東甲信越地方会. 2014. 3. 15, 千葉
- 14) 神崎恒一: 認知症と転倒. 第 55 回日本老年医学会学術集会, 大阪, 2013. 6. 4.
- 15) 田中政道, 須藤紀子, 長谷川浩, 神崎恒一: もの忘れセンター通院患者におけるサルコペニアの実態調査と臨床測定値に関する検討. 第 55 回日本老年医学会学術集会, 大阪, 2013. 6. 5.
- 16) 長谷川浩, 永井久美子, 井上慎一郎, 竹下実希, 長田正史, 里村元, 田中政道, 小原

- 聡将, 神崎恒一, 鳥羽研二: 中高年女性における脊柱矯正・柔軟体操の経年的効果 (10年次報告). 第55回日本老年医学会学術集会, 大阪, 2013. 6. 5.
- 17) 神崎恒一: 認知症と転倒. 第24回認知症を語る会, 名古屋, 2013. 7. 25.
  - 18) 神崎恒一, 金信敬: 高齢者の転倒予防について. 三鷹市老人クラブ連合会講演, 三鷹, 2013. 9. 13.
  - 19) Koichi Kozaki: Gender Difference of Sarcopenia in Cognitive Declined Elderly. 9th Congress of the European Union Geriatric Medicine Society, Venice-Italy, Oct 3. 2013.
  - 20) 神崎恒一: 高齢アルコール依存症者の断酒による骨代謝マーカーの変動. 第14回東京骨・カルシウム・ホルモン代謝研究会, 東京, 2013. 12. 14.
  - 21) 神崎恒一: 認知症と転倒・骨折. 医療マネージメント講演会〜認知症と骨折〜, 高山, 2013. 12. 20.
  - 22) Senda K, Satake S, Kondo I, Tokuda H, Shibasaki M, Nishikawa M, Miura H, Endo H, Toba K. Sarcopenia in physically inactive Japanese elder patients with chronic obstructive pulmonary disease (COPD) undergoing interdisciplinary comprehensive pulmonary rehabilitation. The 20<sup>th</sup> IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul, Korea, 2013
  - 23) Takeda J, Senda K, Satake S, Shibasaki M, Nishikawa M, Tokuda H, Miura H, Endo H, Toba K. Sarcopenia and frailty in Japanese elder patients with obstructive sleep apnea syndrome (OSAS) undergoing continuous positive airway pressure (CPAP) therapy. The 20<sup>th</sup> IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul, Korea, 2013
  - 24) Senda K, Satake S, Kondo I, Nishikawa M, Nishimura K, Tokuda H, Miura H, Endo H, Toba K. Sarcopenia in Japanese Elder Sarcopenia in Japanese elder patients with chronic obstructive pulmonary disease undergoing comprehensive pulmonary rehabilitation. 9<sup>th</sup> Congress of the EUGMS, Venice, Italy, 2013
  - 25) Satake S, Senda K, Hong Y, Miura H, Endo H, Kondo I, Toba K. The usefulness of Kihon Checklist (KCL) to predict adverse outcomes in geriatric outpatients with chronic diseases. 9<sup>th</sup> Congress of the EUGMS, Venice, Italy, 2013
  - 26) Senda K, Satake S, Kondo I, Tokuda H, Nishikawa M, Miura H, Endo H, Toba K. High prevalence of pre-sarcopenia; Reduced muscle mass and preserved muscle strength and function, diagnosed with the European Working Group on Sarcopenia in Older People (EWGSOP) algorithm, in Japanese elder patients with chronic obstructive pulmonary disease undergoing pulmonary rehabilitation. 7<sup>th</sup> Cachexia Conference, Kobe, Japan, 2013
  - 27) Senda K, Satake S, Kondo I, Tokuda H, Nishikawa M, Miura H, Endo H, Toba K. Clinical application of the Kihon Checklist to predict frailty and sarcopenia in Japanese elder outpatients with chronic obstructive pulmonary disease. International Conference on Frailty & Sarcopenia Research, Barcelona, Spain, 2014
  - 28) 大館満, 武田淳, 芝崎正崇, 西川満則, 千田一嘉. 呼吸リハビリテーション患者の基本チェックリストとCAT (COPD Assessment Test) を用いた自己評価. 第53回日本呼吸器学会総会 東京 2013
  - 29) 武田淳, 大館満, 芝崎正崇, 西川満則, 千田一嘉. 高齢睡眠時無呼吸症候群 (OSAS) 患者の“基本チェックリスト”を用いた生活機能の評価. 第53回日本呼吸器学会総会 東京 2013
  - 30) 千田一嘉. 高齢者医療とうつ 5. COPDとうつ. 第55回日本老年医学会総会 大阪 2013 [パネル・ディスカッション]
  - 31) 千田一嘉, 佐竹昭介, 芝崎正崇, 西川満則, 徳田治彦, 近藤和泉, 三浦久幸, 遠藤英俊. 基本チェックリストでみた包括的呼吸リハビリテーションにおける高齢COPD患者の

- サルコペニアと Frailty (虚弱) . 第 55 回日本老年医学会総会 大阪 2013
- 32) 千田一嘉, 佐竹昭介, 芝崎正崇, 西川満則, 徳田治彦, 三浦久幸, 遠藤英俊. 基本チェックリストでみる高齢睡眠時無呼吸症候群 (OSAS) 患者のサルコペニアと Frailty (虚弱) . 第 55 回日本老年医学会総会 大阪 2013
  - 33) Satake S, Shimokata H, Senda K, Kondo I, and Toba K: The Predictive Validity of the Kihon Checklist for Identifying Frailty in a Community-dwelling Older Population. The 20<sup>th</sup> International IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul, Korea, June 23-27, 2014
  - 34) Satake S, Senda K, Hong YJ, Miura H, Endo H, Kondo I, Toba K: The usefulness of Kihon Checklist (KCL) to predict adverse outcomes in geriatric outpatients with chronic diseases. 9th Congress of the EUGMS, Venice, October 2-4, 2013
  - 35) Satake S: Frailty Research: Evidence from Japan - Implication of Frailty Screening in Japan-International Conference on Frailty & Sarcopenia (ICFSR) 2014, Barcelona, Spain, March 12-14, 2014,
  - 36) 佐竹昭介, 下方浩史, 千田一嘉, 近藤和泉, 鳥羽研二: 基本チェックリストの質問領域と健康障害発生の関連性、(第 55 回日本老年医学会学術集会) 2013. 6. 4~6 大阪
  - 37) サブレ森田さゆり, 佐竹 昭介, 古菌 里美, 嶋田佳代子, 高道 香織, 近藤 和泉, 川嶋 修司, 細井 孝之, 徳田 治彦: 虚弱を伴う高齢者糖尿病患者の特徴、(第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会) 2013. 5. 16~18, 熊本

#### 平成 26 年度

- 1) Sable-Morita S, Satake S, Tanigawa T, et al. Frailty status classified by Kihon checklist in the elderly with diabetes Mellitus. 9<sup>th</sup> Metabolic Syndrome, Type 2 Diabetes and Atherosclerosis Congress, Kyoto, Japan. Sept 12-14, 2014
- 2) サブレ森田さゆり, 佐竹 昭介, 谷川 隆久, 川嶋 修司, 徳田 治彦 高齢糖尿病患者におけるフレイルとサルコペニア 第 1 回サルコペニア・フレイル研究会 東京, 2014. 10. 19.
- 3) 佐竹 昭介, 千田 一嘉, 洪 英在, 三浦 久幸, 遠藤 英俊, 櫻井 孝, 近藤 和泉, 鳥羽 研二 基本チェックリスト総合点によるフレイル評価の有用性 第 1 回サルコペニア・フレイル研究会 東京, 2014. 10. 19.
- 4) 小川純人: [シンポジウム] サルコペニアと骨粗鬆症. 第 32 回日本骨代謝学会学術集会 2014. 7. 26, 大阪
- 5) 小川純人, 小島太郎, 秋下雅弘: [シンポジウム] 高齢者外来におけるメンズヘルスと老年・代謝疾患. 第 14 回日本 Men's Health 医学会. 2014. 9. 28, 大阪
- 6) 小川純人: [口演] サルコペニア. 日本在宅医学会東日本生涯教育プログラム. 2014. 10. 4, 東京
- 7) 小川純人: [特別講演 1] 高齢者と栄養. 第 4 回日本臨床スポーツ栄養学会. 2014. 10. 18, 東京
- 8) 小川純人, 矢可部満隆, 秋下雅弘: [シンポジウム] サルコペニア・フレイルとホルモン. 第 1 回日本サルコペニア・フレイル研究会 (2014). 2014. 10. 19, 東京
- 9) 木棚究, 山口潔, 亀山祐美, 本多正幸, 江頭正人, 小川純人, 秋下雅弘. E-learning を用いた医学部学生に対する認知症教育の試み. 第 33 回日本認知症学会学術集会. 2014. 11. 30, 大阪
- 10) 秋好沢諭, 飯島勝矢, 大田秀隆, 小川純人, 秋下雅弘: 血管石灰化形成の新たな実験モデルの構築. 第 46 回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 2014. 7. 10-11, 東京
- 11) 大田秀隆, 小川純人, 飯島勝矢, 江頭正人, 大内尉義, 秋下雅弘: 血管内皮細胞老化によるアミロイド蛋白産生に関する検討. 第 46 回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 2014. 7. 10-11, 東京

- 12) 神崎恒一：認知症に伴う運動器の障害. 山武郡市薬剤師会、城西国際大学薬学部保険薬局部会, 東金, 2014. 5. 30.
- 13) 神崎恒一：(シンポジウム) フレイル研究の最前線～診断から介入への展望～. 第 56 回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014. 6. 12.
- 14) 小柴ひとみ, 永井久美子, 田中政道, 松井敏史, 神崎恒一：もの忘れ外来通院高齢者における転倒歴と血中カルニチン値との関連. 第 56 回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014. 6. 12.
- 15) 田中政道, 永井久美子, 小柴ひとみ, 松井敏史, 神崎恒一：高齢者における転倒歴と身体機能の低下との関連について. 第 56 回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014. 6. 12.
- 16) 神崎恒一：認知症と骨折・転倒. 第 1 回日本サルコペニア・フレイル研究会研究発表会, 東京, 2014. 10. 19.
- 17) 田中政道, 松井敏史, 小柴ひとみ, 永井久美子, 長谷川浩, 神崎恒一：もの忘れ外来通院患者におけるサルコペニアの実態調査と臨床測定値に関する検討. 第 1 回日本サルコペニア・フレイル研究会研究発表会, 東京, 2014. 10. 19.
- 18) 神崎恒一：(シンポジウム)「認知症患者の身体的合併症」転倒・骨折. 第 33 回日本認知症学会学術集会, 2014. 11. 29.
- 19) 中居龍平, 山田如子, 小林義雄, 長谷川浩, 神崎恒一：認知症患者の単純・連続繰り返し動作における fNIRS による血流評価と転倒傾向. 第 33 回日本認知症学会学術集会, 2014. 12. 1.
- 20) 神崎恒一：認知症患者の転倒・骨折. 高齢者 Total Care Support セミナー, 新潟, 2015. 2. 12.
- 21) 神崎恒一：認知症高齢者の歩行障害と転倒. 第 4 回 ADL 懇話会, 燕, 2015. 2. 18.
- 22) 神崎恒一：サルコペニア・フレイルとは？. 第 14 回生活習慣病フォーラム, 郡山, 2015. 2. 26.
- 23) Kim H, Kojima N, Kim M, Yoshida H, Saito K, Hirano H, Yoshida Y, Hosio E, Yamashiro Y, Suzuki T. Prevalence and characteristics of dynapenic obesity in community-dwelling Japanese elderly women. The American Geriatrics Society Annual Scientific Meeting, Orlando, USA, 2014. 5. 15-17
- 24) Kim M, Kim H, Sasai H, Kojima N, Varadhan R. Association between objectively measured sleep quality and physical function in the oldest old. ACSM's 61st Annual Meeting, 5th World Congress on Exercise is Medicine, Orlando, USA, 2014. 5. 27-31.
- 25) 小島成実, 金美芝, 吉田英世, 平野浩彦, 大淵修一, 島田裕之, 鈴木隆雄, 金憲経：後期高齢期における膝伸展力の変化に関連する生活習慣の解明、第 56 回日本老年医学会学術集会・総会、福岡、2014. 6. 12-14
- 26) 金憲経, 小島成実, 金美芝, 吉田英世, 平野浩彦, 山城由華吏, 鈴木隆雄：都市部在住高齢者におけるダイナペニックオベシティの有症率とその特徴について、第 56 回日本老年医学会学術集会・総会、福岡、2014. 6. 12-14
- 27) 杉江正光, 原田和昌, 高橋哲也, 小山照幸, 大淵修一, 金憲経, 許俊鋭, 井藤英喜：高齢者のサルコペニアと心肺運動機能との関連、第 56 回日本老年医学会学術集会・総会、福岡、2014. 6. 12-14
- 28) 杉江正光, 原田和昌, 高橋哲也, 小山照幸, 大淵修一, 金憲経, 許俊鋭, 井藤英喜：外来通院高齢者における心肺運動負荷試験を用いたサルコペニア診断の可能性、第 56 回日本老年医学会学術集会・総会、福岡、2014. 6. 12-14
- 29) 平野浩彦, 渡邊裕, 小原由紀, 枝広あや子, 藤原佳典, 河合恒, 吉田英世, 井原一成, 大淵修一, 金憲経：運動達成後の高齢者咀嚼機能低下のリスク因子としてサルコペニアの可能性、第 56 回日本老年医学会学術集会・総会、福岡、2014. 6. 12-14
- 30) Kim H, Hu X, Kojima N, Kim M, Hirano H, Yoshida Y, Hosoi E, Yoshida H. Characteristics of sarcopenia in relation to bone mineral density, chronic medical conditions, and physical function. 2014 HAAC Annual Meeting, Suzhou, China,

2014. 8. 26-28

- 40) 金憲経、小島成実、金美芝、平野浩彦、吉田英世：地域在住高齢者における要介護状態と関連する要因の検討、第 19 回板橋区医師会医学会、東京、2014. 9. 13-14
- 41) 金憲経、金美芝、吉田祐子、鈴木隆雄：サルコペニア高齢者を対象に実施した RCT 介入研究の長期効果検証、第 69 回日本体力医学会大会、長崎、2014. 9. 19-21
- 42) 金美芝、笹井浩行、金憲経：地域在住高齢者における客観的に測定した睡眠の質と過体重との関連性、第 69 回日本体力医学会大会、長崎、2014. 9. 19-21
- 43) 金憲経：シンポジウム：サルコペニアの介入、第 1 回日本サルコペニア・フレイル研究会研究発表会、東京、2014. 10. 19
- 44) 成田美紀、吉田英世、大淵修一、河合恒、藤原佳典、平野浩彦、小島基永、井原一成、金憲経、森田明美、新開省二：高齢者における食品摂取多様性と食品および栄養素摂取との関連、第 73 回日本公衆衛生学会総会、栃木、2014. 11. 5-7
- 45) 吉田英世、井原一成、島田裕之、吉田祐子、小島成実、金美芝、平野浩彦、金憲経、長谷川千絵、飯田浩毅、天野雄一、端詰勝敬、蜂須貢：地域高齢者の脳神経由来栄養因子の血清濃度はうつ病発症後に低下する、第 73 回日本公衆衛生学会総会、栃木、2014. 11. 5-7
- 46) 井原一成、端詰勝敬、蜂須貢、大庭輝、長谷川千絵、天野雄一、飯田浩毅、金憲経、小島成実、吉田祐子、金美芝、吉田英世：BDNF と基本チェックリスト、アパシー尺度の高齢うつ病に対するスクリーニング精度、第 73 回日本公衆衛生学会総会、栃木、2014. 11. 5-7
- 47) 金憲経、小島成実、金美芝、吉田英世、吉田祐子、平野浩彦、山城由華吏、宮永真澄：地域在住虚弱高齢者を対象とした運動・栄養介入の効果検証—その 1 血液分析、第 73 回日本公衆衛生学会総会、栃木、2014. 11. 5-7
- 48) 小島成実、金憲経、金美芝、吉田英世、吉田祐子、平野浩彦、山城由華吏、宮永真澄：地域在住虚弱高齢者を対象とした運動・栄養介入の効果検証—その 2 体力、第 73 回日本公衆衛生学会総会、栃木、2014. 11. 5-7
- 49) 金美芝、金憲経、小島成実、吉田英世、吉田祐子、平野浩彦、山城由華吏、宮永真澄：地域在住虚弱高齢者を対象とした運動・栄養介入の効果検証—その 3 身体組成、第 73 回日本公衆衛生学会総会、栃木、2014. 11. 5-7
- 50) 宮永真澄、山城由華吏、金憲経、小島成実、金美芝、吉田英世、吉田祐子、平野浩彦：地域在住虚弱高齢者を対象とした運動・栄養介入の効果検証—その 4 歩行機能、第 73 回日本公衆衛生学会総会、栃木、2014. 11. 5-7
- 51) 山城由華吏、宮永真澄、金憲経、小島成実、金美芝、吉田英世、吉田祐子、平野浩彦：地域在住虚弱高齢者を対象とした運動・栄養介入の効果検証—その 5 日常活動、第 73 回日本公衆衛生学会総会、栃木、2014. 11. 5-7
- 52) 染川慎治、三根智幸、小野郁、林直樹、大淵修一、吉田英世、河合恒、藤原佳典、平野浩彦、小島基永、井原一茂、金憲経：地域在住高齢者における虚弱と味・匂いとの関連についての解析、第 73 回日本公衆衛生学会総会、栃木、2014. 11. 5-7
- 53) 松下 英二、伊藤 ゆい、岡田 希和子、佐竹 昭介、葛谷 雅文：健常高齢者における SMI と関連測定項目の参照値の報告、第 56 回 日本老年医学会学術集会 2014. 6. 12-14, 福岡
- 54) 伊藤 ゆい、松下 英二、岡田 希和子、佐竹 昭介、葛谷 雅文：健常高齢者における口腔機能と食物摂取状況の関連、第 56 回 日本老年医学会学術集会 2014. 6. 12-14, 福岡
- 55) 伊藤 ゆい、松下 英二、岡田 希和子、佐竹 昭介、葛谷 雅文：口腔状態の自己評価と身体・精神・栄養・口腔機能との関係、第 11 回日本口腔ケア学会・総会学術大会、2014. 6. 28-29, (旭川)
- 56) 松下 英二：健常高齢者の研究とその可能性について (シンポジウム), 第 25 回日本老年医学会東海地方会, 2014. 10. 4, (名古屋)
- 57) 松下 英二、伊藤 ゆい、岡田 希和子、佐竹 昭介、葛谷 雅文：健常高齢者を基準としたサルコペニア診断基準の検討、第 1 回日本サルコペニア・フレイル研究会研究発表会、2014. 10. 19, (東京)

- 58) Gondo Y. SONIC as a substructure of a centenarian study International Centenarian Consortium.
- 59) Gondo Y. Construct of Psychological Well-Being in Centenarians and the Oldest Old. International Conference of applied psychology.
- 60) Gondo Y, Saito Y, & Hirose N. Age verification of the longest lived men in the world Supercentenarian Workshop.
- 61) Gondo Y, Mausi Y, & Nakagawa T. Shift of Psychological Adaption Mechanism from Young-old to Oldest-old. Gerontology Society of America.
- 62) 土井剛彦, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 朴眩泰, 吉田大輔, 堤本広大, 上村一貴, 阿南祐也, 鈴木隆雄. 軽度認知機能障害と運動機能低下は相互作用により転倒との関連性が強くなるのか?—歩行解析と認知機能評価による検討— 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014. 5. 30.
- 63) 上村一貴, 東口大樹, 高橋秀平, 島田裕之, 内山靖. 軽度認知障害高齢者では注意負荷を伴うステップ反応動作において予測的姿勢調節の時間および潜在的エラーが増加する. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014. 5. 30.
- 64) 転倒リスク・転倒自己効力感評価の転倒予測における有用性と生活・精神・身体機能評価との関連. 安延由紀子, 杉本 研ほか. 第 1 回サルコペニア・フレイル研究発表会. 2014. 10. 19, 東京.
- 65) 高齢生活習慣病患者における筋量、筋力測定の有用性—経年変化を含めた検討—. 杉本 研ほか. 第 56 回 日本老年医学会学術集会・総会. 2014. 6. 13, 福岡 (口述).
- 66) 転倒リスク・転倒自己効力感評価の転倒予測における有用性と生活・精神・身体機能評価との関連. 安延由紀子, 杉本 研ほか. 第 25 回日本老年医学会近畿地方会. 2014. 10. 11, 和歌山.
- 67) 生活習慣病を有する高齢者を対象とした筋力低下の実態調査. 安延由紀子, 杉本 研ほか. 第 49 回日本理学療法学会大会. 2014. 6. 1, 横浜.
- 68) 千田一嘉、西川満則: 高齢 COPD 患者の基本チェックリストによる虚弱 (Frailty) の評価. 第 54 回日本呼吸器学会総会 大阪 2014.
- 69) 千田一嘉、西川満則: 基本チェックリストでみた CPAP 外来での高齢睡眠時無呼吸症候群 (OSAS) 患者の虚弱 (Frailty) . 第 54 回日本呼吸器学会総会 大阪 2014.
- 70) 千田一嘉、佐竹昭介、西川満則、徳田治彦、近藤和泉、三浦久幸、遠藤英俊: 呼吸リハビリテーションを核とした高齢 COPD 患者における包括的ケアへの基本チェックリストの導入. 第 56 回日本老年医学会総会 福岡 2014.
- 71) 千田一嘉、佐竹昭介、西川満則、徳田治彦、三浦久幸、遠藤英俊: 基本チェックリストの継時的変化でみた高齢睡眠時無呼吸症候群患者 (OSAS) のケア. 第 56 回日本老年医学会総会 福岡 2014.
- 72) 千田一嘉、佐竹昭介、西川満則、徳田治彦、近藤和泉、三浦久幸、遠藤英俊: 呼吸リハビリテーション外来の高齢 COPD 患者における欧州関連学会コンセンサス定義によるサルコペニアの検討. 第 1 回日本サルコペニア・フレイル研究会 東京 2014
- 73) Yoshimura N, Oka H, Muraki S, Oka H, Tanaka S, Nakamura K, Akune T, Kawaguchi H: Radiographs: What features and criteria to use? 1st International Early Knee Osteoarthritis Workshop in Japan, 2014. 11. 6 (Workshop, invited speaker)
- 74) Yoshimura N, Muraki S, Oka H, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T: Mutual associations among diseases causing disability, such as musculoskeletal diseases, metabolic syndrome components, and mild cognitive impairment: A 3-year follow-up of the ROAD study. The Annual Congress of European Calcified Tissue Society (ECTS) 2014, Prague, Czech Republic, 2014. 5. 17-20
- 75) Yoshimura N, Muraki S, Oka H, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T: Mutual associations among musculoskeletal diseases, metabolic syndrome, and cognitive

- impairment: A 3-year follow-up of the ROAD study. The European League Against Rheumatism (EULAR) 2014, Paris, France, 2014.6.11-14
- 76) Muraki S, Akune T, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Oka H, Yoshimura N: Dose Osteophytosis at the Knee Predict Health-related Quality of Life Decline? A 3-Years follow-up of the ROAD Study. The European League Against Rheumatism (EULAR) 2014, Paris, France, 2014.6.11-14
- 77) Oka H, Ohashi S, Kadono Y, Yasui T, Ono K, Isawa K, Yoshimura N, Nishino J, Tanaka S: Assessment of joint destruction at the knee in rheumatoid arthritis using semi-automated software for Magnetic resonance image analysis. The European League Against Rheumatism (EULAR) 2014, Paris, France, 2014.6.11-14
- 78) Yoshimura N, Muraki S, Oka H, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T: Mutual associations among diseases causing disability, such as musculoskeletal diseases, metabolic syndrome components, and mild cognitive impairment: A 3-year follow-up of the population-based cohort ROAD. IOF Regionals 5th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting, Taipei, Chinese Taipei, 2014.11.14-16
- 79) Kodama R, Oka H, Muraki S, Tanaka S, Nakamura K, Akune T, Yoshimura N: Prevalence of Hand Osteoarthritis in the General Japanese Population: The ROAD Study. IOF Regionals 5th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting, Taipei, Chinese Taipei, 2014.11.14-16
- 80) Muraki S, Akune T, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Oka H, Yoshimura N: Effect of Osteophytosis at the Knee on Health-related Quality of Life. A 3-Year Follow-up of the ROAD Study. IOF Regionals 5th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting, Taipei, Chinese Taipei, 2014.11.14-16
- 81) Kagotani R, Yoshida M, Muraki S, Oka H, Hashizume H, Yamada H, Tanaka S, Nakamura K, Kawaguchi H, Akune T, Yoshimura N: Association between diffuse idiopathic skeletal hyperostosis, bone mineral density, and CTX2: The ROAD study. 2015 Annual Meeting of American Academy of Orthopedic Surgeons, Las Vegas, USA, 2015.3.24-28
- 82) Muraki S, Akune T, Oka H, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Yoshimura N: Muscle strength rather than muscle mass of the lower limb is associated with knee pain: The ROAD study. World Congress on Osteoporosis, Osteoarthritis and Musculoskeletal Diseases (WCO-IOF-ESCEO)2015, Milan, Italy, 2015.3.26-29
- 83) 橋本求: 関節リウマチ患者のサルコペニア合併に影響を与える因子—KURAMA コホートを  
用いた検討—, 第18回 Gold Conference, 2015.2.21.
- 84) 吉田英世、金憲経、吉田祐子、小島成美、金美芝、清水容子、平野浩彦、鈴木隆雄. 地域在住高齢者における骨粗鬆症（低骨量）が動脈硬化性疾患の発症に及ぼす影響. 第16回日本骨粗鬆症学会, 東京, 2014.10.23-25.
- 85) 吉田英世、井原一成、島田裕之、吉田祐子、小島成美、金美芝、平野浩彦、金憲経、谷川千絵、飯田浩毅、天野雄一、端詰勝敬、蜂須貢. 地域高齢者の脳神経由来栄養因子の血清濃度はうつ病発症後低下する. 第73回日本公衆衛生学会総会, 宇都宮, 2014.11.5-7.

#### 平成 27 年度

- 1) 佐久間真由美, 青木可奈, 荻荘則幸, 遠藤直人. 骨折予防のためのロコモコール による在宅支援. 第17回日本骨粗鬆症学会, 広島市, 2015.9.17-19.
- 2) 佐久間真由美. ロコモティブシンドロームとは? フレイル、サルコペニアとの関連. 第710回新潟医学会, 新潟市, 2015.10.17.
- 3) 小川純人: [シンポジウム] サルコペニアの基礎と制御. 第15回日本抗加齢医学会総会. 2015.5.30, 福岡
- 4) 小川純人: [シンポジウム] 男性における性腺機能低下症と骨粗鬆症. 第33回日本骨代

- 謝学会学術集会. 2015. 7. 20, 東京
- 5) 小川純人, 矢可部満隆, 秋下雅弘: [シンポジウム] サルコペニア発症における炎症の役割とその制御. 第 36 回日本炎症・再生医学会. 2015. 7. 21, 東京
  - 6) Mitsutaka Yakabe, Sumito Ogawa, Masahiro Akishita.  
Beta -hydroxy-beta-methylbutyrate and vitamin D coordinately prevent skeletal muscle atrophy *in vivo*. International Conference on Frailty and Sarcopenia Research. 2015. 4. 23, ボストン
  - 7) 小川純人: [シンポジウム] 動脈硬化と性ホルモンの関係. 第 15 回日本 Men's Health 医学会. 2015. 9. 5, 埼玉
  - 8) 神崎恒一: (シンポジウム) 認知症高齢者における虚弱 (フレイル) と身体機能障害. 第 17 回日本在宅医学会もりおか大会, 盛岡, 2015 年 4 月 25 日.
  - 9) 永井久美子, 小柴ひとみ, 田中政道, 柴田茂貴, 松井敏史, 神崎恒一: 高齢通院患者のフレイルの進行に影響する歩行関連因子の検討. 第 57 回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015 年 6 月 13 日.
  - 10) 永井久美子, 小柴ひとみ, 田中政道, 柴田茂貴, 松井敏史, 神崎恒一: 高齢通院患者におけるフレイルと老年症候群との関連. 第 57 回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015 年 6 月 14 日.
  - 11) 小柴ひとみ, 永井久美子, 田中政道, 松井敏史, 神崎恒一: フレイル研究被験者における 3 年間の追跡調査. 第 57 回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015 年 6 月 14 日.
  - 12) 中居龍平, 園原和樹, 山田如子, 小林義雄, 長谷川浩, 神崎恒一: 認知症患者に認めた fNIRS 上の脳血流量累減現象と転倒予測としてのハンカチテスト. 第 34 回日本認知症学会学術集会, 青森, 2015 年 10 月 3 日.
  - 13) 小原聡将, 長谷川浩, 小林義雄, 小原吏絵, 小柴ひとみ, 永井久美子, 山田如子, 松井敏史, 神崎恒一: 大脳白質病変を有する MCI の認知症移行症例における総合機能評価の特徴. 第 34 回日本認知症学会学術集会, 青森, 2015 年 10 月 3 日.
  - 14) Koichi Kozaki: FRAILTY ASSOCIATES WITH GERIATRIC SYNDROMES AND PROGRESSES WITH WALKING UNSTEADINESS. The 10th IAGG Asia / Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics 2015, Thailand, October 21th. 2015.
  - 15) 神崎恒一: 認知症高齢者のフレイル度の評価. 高齢者医療 Up To DATE フォーラム, 東京, 2015 年 11 月 10 日.
  - 16) 神崎恒一: (シンポジウム) フレイルと介護予防. 第 3 回日本介護福祉・健康づくり学会大会, 東京, 2015 年 11 月 15 日.
  - 17) Kim H, Kojima N, Kim M, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Yamashiro Y, Miyanaga M, Suzuki T: Exercise and nutrition supplementation on hematological factors in community-dwelling Japanese frail elderly women - RCT placebo trial. The American Geriatrics Society Annual Scientific Meeting, National Harbor MA, USA, 2015. 5. 15-17
  - 18) Kim MJ, Kim H, Yoshida H, Suzuki T. Relationship between QTc prolongation and slow walking speed in older adults. ACSM's 62<sup>nd</sup> Annual Meeting, San Diego CA, USA, 2015. 5. 26-30
  - 19) 金憲経: Sarcopenic obesity, 第 35 回日本骨形態計測学会, 岡山, 2015. 6. 4-6
  - 20) 金憲経, 平野浩彦: 都市部在住フレイル高齢者の口腔機能について, 第 29 回日本老年学会総会合同大会, 神奈川, 2015. 6. 12-14
  - 21) 渡辺信博, 飯村佳織, 榎永浩一, 宮崎彰吾, 金憲経, 粕谷豊, 堀田晴美: 高齢女性の夜間頻尿に対する軽微な皮膚刺激の効果についての検討, 第 29 回日本老年学会総会合同大会, 神奈川, 2015. 6. 12-14
  - 22) 高城大輔, 平野浩彦, 渡邊裕, 枝広あや子, 小原由紀, 白部麻樹, 大淵修一, 吉田英世, 藤原佳典, 河合恒, 金憲経, 井原一成, 弘中祥司: 地域在住高齢者の食欲減退がサルコ

- ペニアに及ぼす影響—食欲指標 (SNAQ) を用いた検討—、第 29 回日本老年学会総会合同大会、神奈川、2015. 6. 12-14
- 23) 金憲経、小島成美、金美芝、吉田英世、平野浩彦：都市部在住後期高齢者におけるサルコペニアの発症率と予測因子—4 年間の縦断データを用いて—、第 29 回日本老年学会総会合同大会、神奈川、2015. 6. 12-14
  - 24) 杉江正光、藤本肇、高橋哲也、金憲経、大淵修一、許俊鋭、原田和昌、井藤英喜：外来通院高齢者における心肺運動負荷試験指標とサルコペニアとの関係 (AWGS 基準に準じて)、第 29 回日本老年学会総会合同大会、神奈川、2015. 6. 12-14
  - 25) 杉江正光、藤本肇、高橋哲也、金憲経、大淵修一、許俊鋭、原田和昌、井藤英喜：老年症候群に対する全身遠赤外線乾式低温サウナ浴の効果、第 29 回日本老年学会総会合同大会、神奈川、2015. 6. 12-14
  - 26) 金美芝、金憲経、小島成美、吉田英世：地域在住高齢女性における客観的に測定した睡眠・覚醒パターンと歩行速度の関連、第 29 回日本老年学会総会合同大会、神奈川、2015. 6. 12-14
  - 27) 鈴木宏幸、河合恒、安永正史、桜井良太、平野浩彦、吉田英世、金憲経、井原一成、大淵修一、藤原佳典：地域高齢者における MoCA-J の 3 年間の縦断変化と反復効果、第 29 回日本老年学会総会合同大会、神奈川、2015. 6. 12-14
  - 28) 吉田英世、石崎達郎、金憲経、金美芝、小島成美、平野浩彦、鈴木隆雄：地域在住高齢者を対象とした認知機能低下に関する要因の検討、第 29 回日本老年学会総会合同大会、神奈川、2015. 6. 12-14
  - 29) 小島成美、金憲経、金美芝、吉田英世、平野浩彦、鈴木隆雄：都市部在住高齢者における変形性膝関節症と諸疾患の関連の横断的分析、第 29 回日本老年学会総会合同大会、神奈川、2015. 6. 12-14
  - 30) 飯島勝矢、鳥山佳則、渡邊裕、金憲経：高齢者の食を支えるために：オーラルフレイルの概念を討議する、第 29 回日本老年学会総会合同大会、神奈川、2015. 6. 12-14
  - 31) 金憲経：サルコペニア update：運動・アミノ酸療法の可能性、第 29 回日本老年学会総会合同大会、神奈川、2015. 6. 12-14
  - 32) 金憲経：地域在住高齢者におけるフレイルと関節疾患との関連について、第 18 回日本運動疫学会学術総会、愛知、2015. 6. 20-21
  - 33) 金憲経：地域在住高齢者におけるサルコペニア肥満の実態と介入の試み、第 33 回日本肥満症治療学会学術集会、千葉、2015. 6. 26-27
  - 34) 金憲経、金美芝：地域在住高齢女性におけるサルコペニアと骨密度との関連、第 70 回日本体力医学会大会、和歌山、2015. 9. 18-20
  - 35) 金憲経：大都市に暮らすシニアの健康づくりを支援して、第 70 回日本体力医学会大会、和歌山、2015. 9. 18-20
  - 36) 金美芝、笹井浩行、鄭松伊、大須賀洋祐、中田由夫、金憲経、田中喜代次：2 つの傾斜計を用いて測定した高齢者の臥位・座位・立位・歩行の配分時間、第 70 回日本体力医学会大会、和歌山、2015. 9. 18-20
  - 37) 鄭松伊、金美芝、笹井浩行、大須賀洋祐、中田由夫、金憲経、田中喜代次：地域在住高齢者における日常生活下の歩行頻度、継続時間、ケイデンスの性差、第 70 回日本体力医学会大会、和歌山、2015. 9. 18-20
  - 38) 笹井浩行、金美芝、鄭松伊、大須賀洋祐、中田由夫、金憲経、田中喜代次：高齢者の日常生活下ケイデンスに関する記述的研究：歩行イベント解析、第 70 回日本体力医学会大会、和歌山、2015. 9. 18-20
  - 39) 金憲経、金美芝、小島成美、吉田英世、平野浩彦、鈴木隆雄：地域在住サルコペニア高齢者を対象に実施した RCT 介入研究への参加者と不参加者の長期推移比較—4 年間の追跡データを用いて—、日本サルコペニア・フレイル研究会研究発表会、東京、2015. 10. 4
  - 40) 金憲経：フレイル・サルコペニア対策—栄養と運動の効果—、食品開発展 2015 記念セ

ミナー、東京、2015.10.7

- 41) Kim H: Exercise and nutritional supplementation in community-dwelling elderly women: A randomized placebo controlled trial. The 10<sup>th</sup> International Association of Gerontology and Geriatrics - Asia/Oceania 2015 Congress, Chiang Mai, Thailand, 2015.10.19-22
- 42) Kim H, Kim M, Kojima N, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Suzuki T: Incidence and predictors of sarcopenia onset in community-dwelling elderly Japanese women: 4-year follow-up study. The 10<sup>th</sup> International Association of Gerontology and Geriatrics - Asia/Oceania 2015 Congress, Chiang Mai, Thailand, 2015.10.19-22
- 43) Hirano H, Watanabe Y, Eda Hiro A, Kawai H, Kim H, Yoshida H, Obuchi S: Relationship between sarcopenia and chewing ability in Japanese community-dwelling elderly - Is sarcopenia a contributing factor for decline in chewing ability? The 10<sup>th</sup> International Association of Gerontology and Geriatrics - Asia/Oceania 2015 Congress, Chiang Mai, Thailand, 2015.10.19-22
- 44) Kim M, Kojima N, Kim H: Association between objectively measured habitual sleep patterns and body composition in oldest old women. The 10<sup>th</sup> International Association of Gerontology and Geriatrics - Asia/Oceania 2015 Congress, Chiang Mai, Thailand, 2015.10.19-22
- 45) Kojima N, Kim M, Saito K, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Obuchi S, Shimada H, Suzuki T, Kim H: Lifestyle factors related to knee-extension strength in older women. The 10<sup>th</sup> International Association of Gerontology and Geriatrics - Asia/Oceania 2015 Congress, Chiang Mai, Thailand, 2015.10.19-22
- 46) 安永正史、村山陽、鈴木宏幸、小川将、河合恒、吉田英世、金憲経、平野浩彦、大淵修一、藤原佳典: 高齢者と子どもの交流頻度: 東京都板橋区在住の高齢者における「シニア世代の安全・安心な暮らしに関する調査、第10回日本応用老年医学会大会、東京、2015.10.25
- 47) 藤野健、小島成美、金美芝、吉田英世、吉田祐子、平野浩彦、金憲経: 地域在住高齢者における転倒者の特性分析—1回転倒者と複数回転倒者の比較—、第74回日本公衆衛生学会総会、長崎、2015.11.4-6
- 48) 金憲経、小島成美、金美芝、藤野健、吉田祐子、平野浩彦、吉田英世: 地域在住高齢者におけるサルコペニア肥満の有症率とその特徴について、第74回日本公衆衛生学会総会、長崎、2015.11.4-6
- 49) 金美芝、藤野健、小島成美、小林久峰、金憲経: 地域在住高齢者の姿勢と体組成、体力、骨密度、老年症候群、既往歴との関連性分析、第74回日本公衆衛生学会総会、長崎、2015.11.4-6
- 50) 小島成美、金美芝、吉田英世、吉田祐子、平野浩彦、大淵修一、島田裕之、斎藤京子、金憲経: 各食品群接種頻度が変形性膝関節症の発症に及ぼす影響—4年間の縦断的研究—、第74回日本公衆衛生学会総会、長崎、2015.11.4-6
- 51) 井原一成、藤田欣也、吉田英世、小原由紀、平野浩彦、藤原佳典、小島基永、金憲経、天野雄一、端詰勝敬、蜂須貢、河合恒、大淵修一: 地域高齢者における抗不安薬の投与頻度及び眠前投与と多剤投与の実態、第74回日本公衆衛生学会総会、長崎、2015.11.4-6
- 52) 吉田英世、井原一成、端詰勝敬、吉田祐子、小島成美、金美芝、平野浩彦、金憲経、蜂須貢: 地域在住高齢者におけるフレイルとBDNF(脳由来神経栄養因子)との関連性の検討、第74回日本公衆衛生学会総会、長崎、2015.11.4-6
- 53) 金憲経: サルコペニアと介護予防、日本介護福祉・健康づくり学会 第3回大会、東京、2015.11.15
- 54) 金憲経: 高齢者における体力・運動機能およびフレイルの評価。高齢者の身体活動度・体力評価に関するワークショップ、福岡、2015.12.5

- 55) 金憲経: 高齢者のフレイルと身体活動およびタイ旅行との相互関連性. 身体活動・座位行動の科学: 疫学から機構解明へ、東京、2016. 2. 11
- 56) 金憲経: シンポジウム: 運動によるサルコペニアの予防. 第17回日本健康支援学会年次学術体会、名古屋、2016. 2. 27-28
- 57) 金憲経: 都市部在住高齢者の姿勢についての検討. 第17回日本健康支援学会年次学術体会、名古屋、2016. 2. 27-28
- 58) 松下 英二、伊藤 ゆい、岡田 希和子、佐竹 昭介、葛谷 雅文. 健常高齢者におけるプレサルコペニアとMNAの関係-Nagoya Longitudinal Study for Healthy Elderlyより. 第2回日本サルコペニア・フレイル研究会 研究発表会 文京区 2015年10月4日
- 59) 松下 英二、岡田 希和子、佐竹 昭介、葛谷 雅文. 高齢者における口腔機能・身体機能とフレイルの関連-NLS - HE:Nagoya Longitudinal Study for Healthy Elderlyより. 第57回日本老年医学会学術集会・総会 横浜市 2015年6月13日
- 60) 伊藤 ゆい、松下 英二、岡田 希和子、佐竹 昭介、葛谷 雅文. 口腔状態の自己評価と身体・精神・栄養・口腔機能との関係. 第12回日本口腔ケア学会総会・学術大会 下関市 2015年6月27日~6月28日
- 61) Ryuno H, Kamide K, Gondo Y, Oguro R, Nakama C, Ikebe K, Masui Y, Ishizaki T, Arai Y, Rakugi H Association between Hypertension and Cognitive Function in Age 70 and 80 Years from Japanese SONIC Study The International Association of Gerontology and Geriatrics European Region 8th Congress April 23-26, 2015 Dublin, Ireland
- 62) Kamide K, Ryuno H, Oguro R, Nakama C, Yokoyama S, Kabayama M, Takeya M, Takeda M, Takami Y, Itoh N, Takeya Y, Yamamoto K, Sugimoto K, Rakugi H Association of Longevity Gene Polymorphism, FOXO3A SNP, with Hypertension in Japanese Older Subjects -SONIC Study- 第37回日本高血圧学会総会 平成27年10月 愛媛
- 63) 龍野洋慶, 神出 計, 権藤恭之, 小黒亮輔, 中間千香子, 樺山 舞, 池邊一典, 新井康通, 石崎達郎, 楽木宏実: 高齢者における高血圧と認知機能との関連-服薬アドヒアランスの影響: SONIC 研究- 第57回日本老年医学会学術集会 平成27年6月 横浜
- 64) 福岡円香, 神出 計, 樺山 舞, 龍野洋慶, 奈古由美子, 池邊一典, 石崎達郎, 新井康通, 権藤恭之, 楽木宏実: 高齢者における飲酒と血圧の関連 (SONIC 研究) 第57回日本老年医学会学術集会 平成27年6月 横浜
- 65) 龍野洋慶, 神出 計, 権藤恭之, 小黒亮輔, 中間千香子, 横山世理奈, 中川 威, 樺山舞, 杉本 研, 池邊一典, 新井康通, 増井幸恵, 石崎達郎, 楽木宏実: 高齢者における高血圧と認知機能との関連-服薬アドヒアランスの影響: SONIC 研究- 第51回日本循環器病予防学会学術集会 平成27年6月 大阪
- 66) 福岡円香, 神出 計, 樺山 舞, 龍野洋慶, 奈古由美子, 清重映里, 中間千香子, 小黒亮輔, 杉本 研, 池邊一典, 石崎達郎, 新井康通, 権藤 恭之, 楽木宏実: 高齢者における飲酒と血圧の関連 (SONIC 研究) 第51回日本循環器病予防学会学術集会 平成27年6月 大阪
- 67) 龍野洋慶, 神出 計, 権藤恭之, 小黒亮輔, 中間千香子, 樺山 舞, 池邊一典, 新井康通, 石崎達郎, 楽木宏実: 70歳前期高齢者における高血圧と認知機能低下との関連-SONIC 研究3年間の追跡調査からの知見- 第26回日本老年医学会近畿地方会 平成27年11月 京都
- 68) Shimada H. A Scheme for Preventing Dementia in the Community. The 1st NCGG-ICAH Symposium, Session1 Geriatrics and Epidemiology, Obu, June 2, 2015.
- 69) Shimada H, Doi T, Lee S, Makizako H, Tsutsumimoto K. Which types of cognitive function are related to atrophy of the bilateral medial temporal areas? Organization for Human Brain Mapping Conference 2015, Honolulu, Hawaii, June 18, 2015.

- 70) 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 堤本広大, 鈴木隆雄. フレイル高齢者における歩行速度低下の有無が要介護発生に対する影響. 第2回日本サルコペニア・フレイル研究会研究発表会, 東京, 2015年10月4日.
- 71) 杉本 研ほか. 高齢糖尿病患者におけるサルコペニアの頻度とその意義. 第58回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2015年5月21日、下関(口述)、第57回 日本老年医学会学術集会・総会. 2015年6月14日、横浜(口述)、第2回日本サルコペニア・フレイル研究会研究発表会. 2015年10月4日、東京(ポスター).
- 72) 安延由紀子, 杉本 研ほか. 転倒リスク、転倒自己効力感評価の転倒予測における有用性と生活・精神・身体機能評価との関連. 第50回日本理学療法学術大会. 2015年6月5日、東京(口述).
- 73) 安延由紀子, 杉本 研ほか. 高齢入院患者における退院後転倒予測における身体機能評価の有用性. 第57回 日本老年医学会学術集会・総会. 2015年6月14日、横浜(口述).
- 74) 杉本 研ほか. 高齢高血圧患者における転倒に関する因子の検討. 第38回日本高血圧学会総会. 2015年10月11日、松山(口述)、第26回日本老年医学会近畿地方会. 2015年11月14日、京都(口述).
- 75) 安延由紀子, 杉本 研ほか. 高齢者における認知機能障害と身体機能障害との関連. 第26回日本老年医学会近畿地方会. 2015年11月14日、京都(口述).
- 76) 杉本 研ほか. サルコペニア肥満の定義と意義に関する検討. 第19回日本心血管内分泌代謝学会総会. 2015年12月11日、神戸(ポスター).
- 77) 安延由紀子, 杉本 研ほか. 高齢者の転倒予測における身体・精神機能評価の有用性. 第2回日本予防理学療学会. 2015年12月19日、札幌(口述).
- 78) Senda K, Satake S, Kondo I, Nishikawa M, Tokuda H, Miura H, Endo. Frailty in Japanese elder patients with chronic obstructive pulmonary disease: a two-year observation at outpatient clinic for comprehensive pulmonary rehabilitation. International Conference on Frailty and Sarcopenia Research, Boston, USA, 2015.
- 79) 千田一嘉, 西川満則. 高齢 COPD 患者の包括ケア(Integrated Care)に資する呼吸リハビリテーション外来でのフレイル(Frailty)評価. 第55回日本呼吸器学会総会 東京 2015.
- 80) 千田一嘉, 西川満則. 高齢睡眠時無呼吸症候群(OSAS)患者のフレイル(Frailty)評価と経鼻持続陽圧呼吸療法(CPAP)アドヒアランス. 第55回日本呼吸器学会総会東京 2015.
- 81) 千田一嘉, 佐竹昭介, 西川満則, 徳田治彦, 近藤和泉, 三浦久幸, 遠藤英俊. 包括的呼吸リハビリテーション外来における高齢 COPD 患者の大府研究基準を用いたフレイルの評価. 第57回日本老年医学会総会 横浜 2015.
- 82) 千田一嘉, 佐竹昭介, 西川満則, 徳田治彦, 三浦久幸, 遠藤英俊. 高齢睡眠時無呼吸症候群(OSAS)患者のフレイル(Frailty)評価と経鼻持続陽圧呼吸療法(CPAP)アドヒアランス. 第57回日本老年医学会総会 横浜 2015.
- 83) 佐竹昭介, 千田一嘉, 洪 英在, 三浦久幸, 遠藤英俊, 近藤和泉. 基本チェックリスト総合点による健康被害の予測. 第57回日本老年医学会総会 横浜 2015.
- 84) 千田一嘉, 佐竹昭介, 西川満則, 徳田治彦, 近藤和泉, 三浦久幸, 遠藤英俊. 呼吸リハビリテーション外来における高齢 COPD 患者の基本チェックリストによるフレイルの評価. 第2回日本サルコペニア・フレイル研究会 東京 2015.
- 85) 村木重之, 阿久根徹, 岡敬之, 田中栄, 川口浩, 中村耕三, 吉村典子: 腰椎椎間狭小化及び骨棘形成が腰痛に与える影響—The ROAD Study—: 第44回日本脊椎脊髄病学会学術集会 福岡市, 2015. 4. 16-18
- 85) 籠谷良平, 吉田宗人, 村木重之, 岡敬之, 橋爪洋, 山田宏, 田中栄, 中村耕三, 川口浩, 阿久根徹, 吉村典子: びまん性特発性骨増殖症とQOLとの関係: 第44回日本脊椎脊髄病学会学術集会 福岡市, 2015. 4. 16-18

- 86) 浅井宣樹、吉田宗人、岡敬之、村木重之、橋爪洋、山田宏、筒井俊二、阿久根徹、田中栄、川口浩、中村耕三、吉村典子：加齢性変化に伴う脊柱矢状面アライメントの変化と腰痛に関する検討 Wakayama Spine Study：第44回日本脊椎脊髄病学会学術集会 福岡市、2015.4.16-18
- 88) 橋爪洋、吉村典子、山田宏、岡敬之、岩橋弘樹、佐々木貴英、石元優々、長田圭司、寺口真年、籠谷良平、村木重之、阿久根徹、田中栄、川口浩、中村耕三、吉田宗人：腰椎部傍脊柱筋と腸腰筋の性別・年代別変化と腰痛との関連 The Wakayama Spine Study：第44回日本脊椎脊髄病学会学術集会 福岡市、2015.4.16-18
- 89) 橋爪洋、吉村典子、山田宏、岡敬之、岩橋弘樹、佐々木貴英、筒井俊二、浅井宣樹、村木重之、阿久根徹、田中栄、川口浩、中村耕三、南出晃人、中川幸洋、吉田宗人：一般住民における腰椎部傍脊柱筋変性と脊柱矢状面バランスの関係 The Wakayama Spine Study：第44回日本脊椎脊髄病学会学術集会 福岡市、2015.4.16-18
- 90) 寺口真年、吉村典子、橋爪洋、村木重之、山田宏、岡敬之、長田圭司、石元優々、籠谷良平、岩橋弘樹、阿久根徹、田中栄、川口浩、中村耕三、吉田宗人：腰椎における Modic 変化と腰痛の関係 the Wakayama Spine Study：第44回日本脊椎脊髄病学会学術集会 福岡市、2015.4.16-18
- 91) 浅井宣樹、吉田宗人、岡敬之、村木重之、橋爪洋、山田宏、筒井俊二、阿久根徹、田中栄、川口浩、中村耕三、吉村典子：地域住民における脊柱矢状面アライメントの性別・年代別指標 Wakayama Spine Study：第44回日本脊椎脊髄病学会学術集会 福岡市、2015.4.16-18
- 92) 児玉理恵、岡敬之、村木重之、田中栄、吉村典子：大規模コホート研究による手指変形性関節症の有病率およびその関連因子—The ROAD study—：第58回日本手外科学会学術集会 東京、2015.4.17-18
- 93) 吉村典子、村木重之、岡敬之、田中栄、川口浩、中村耕三、阿久根徹：サルコペニアの疫学的特徴と骨関節疾患の関連：The ROAD study 第2回調査：第88回日本整形外科学会学術総会 神戸市、2015.5.21-24
- 94) 村木重之、阿久根徹、田中栄、川口浩、中村耕三、岡敬之、吉村典子：変形性膝関節症における骨棘形成は痛みやADL障害の増悪を予測しうるか？—ROAD スタディ追跡調査—：第88回日本整形外科学会学術総会 神戸市、2015.5.21-24
- 95) 飯高世子、村木重之、岡敬之、田中栄、川口浩、中村耕三、阿久根徹、吉村典子：変形性股関節症の有病率と痛みとの関連—The ROAD study—：第88回日本整形外科学会学術総会 神戸市、2015.5.21-24
- 96) 児玉理恵、岡敬之、村木重之、田中栄、川口浩、中村耕三、阿久根徹、吉村典子：手指の変形性関節症と関連因子の検討—The ROAD Study—：第88回日本整形外科学会学術総会 神戸市、2015.5.21-24
- 97) 阿久根徹、村木重之、緒方徹、田中栄、中村耕三、吉村典子：ロコモ度テストと要介護予測指標との関連 ROAD スタディ第3回目疫学調査より：第52回日本リハビリテーション医学会学術集会 新潟市、2015.5.28-30
- 98) 吉村典子、村木重之、岡敬之、田中栄、川口浩、中村耕三、阿久根徹：サルコペニアの有病率と骨粗鬆症との関連：The ROAD study, 2<sup>nd</sup> visit：第35回日本骨形態計測学会 倉敷市、2015.6.4-6
- 99) 吉村典子、村木重之、岡敬之、田中栄、川口浩、中村耕三、阿久根徹：サルコペニアと骨粗鬆症の相互関係：The ROAD study 第2回調査より：第27回日本運動器科学会 宮崎市、2015.7.4
- 100) 村木重之、阿久根徹、岡敬之、田中栄、川口浩、中村耕三、吉村典子：膝伸展筋力はレントゲン上の変形性膝関節症とは独立して膝痛に影響している—The ROAD study—：第27回日本運動器科学会 宮崎市、2015.7.4
- 101) 飯高世子、村木重之、岡敬之、田中栄、川口浩、中村耕三、阿久根徹、吉村典子：本

- 邦における変形性股関節症の有病率 -The ROAD study- : 第 27 回日本運動器科学会 宮崎市、2015. 7. 4
- 102) 吉村典子、村木重之、岡敬之、田中栄、川口浩、中村耕三、阿久根徹 : サルコペニアと骨粗鬆症の相互関係 : The ROAD study, 2nd visit : 第 33 回日本骨代謝学会学術集会 東京、2015. 7. 23-25
- 103) 村木重之、阿久根徹、岡敬之、田中栄、川口浩、中村耕三、吉村典子 : 膝痛における大腿四頭筋筋力の重要性 -The ROAD study- : 第 33 回日本骨代謝学会学術集会 東京、2015. 7. 23-25
- 104) 吉村典子、村木重之、岡敬之、田中栄、川口浩、中村耕三、阿久根徹 : サルコペニアと骨粗鬆症の相互関係 : The ROAD study (Mutual association between sarcopenia and osteoporosis: The ROAD study) : 第 1 回日本筋学会学術集会 東京都小平市、2015. 8. 8
- 105) 飯高世子、村木重之、岡敬之、田中栄、川口浩、中村耕三、阿久根徹、吉村典子 : 変形性股関節症の重症度別有病率および痛みとの相関 -The ROAD study- : 第 17 回日本骨粗鬆症学会 広島市、2015. 9. 17-19
- 106) Kagotani R, Yoshida M, Muraki S, Oka H, Hashizume H, Yamada H, Tanaka S, Nakamura K, Kawaguchi H, Akune T, Yoshimura N: Association between diffuse idiopathic skeletal hyperostosis, bone mineral density, and CTX2: The ROAD study. 2015 Annual Meeting of American Academy of Orthopedic Surgeons, Las Vegas, USA, 2015. 3. 24-28
- 107) Muraki S, Akune T, Oka H, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Yoshimura N: Muscle strength rather than muscle mass of the lower limb is associated with knee pain: The ROAD study. World Congress on Osteoporosis, Osteoarthritis and Musculoskeletal Diseases (WCO-IOF-ESCEO) 2015, Milan, Italy, 2015. 3. 26-29
- 108) Yoshimura N, Muraki S, Oka H, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T: Progress of vitamin D insufficiency: A 3-year follow-up of the ROAD study. The European League Against Rheumatism (EULAR) 2015, Rome, Italy, 2015. 6. 10-13
- 109) Muraki S, Akune T, Oka H, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Yoshimura N: Knee symptoms are more strongly associated with quadriceps muscle strength than grip strength or muscle mass: The ROAD study. The European League Against Rheumatism (EULAR) 2015, Rome, Italy, 2015. 6. 10-13
- 110) 橋本求:「関節リウマチ患者のサルコペニア合併に影響を与える因子-KURAMA コホートをを用いた検討-」, 第 18 回 Gold Conference, 2015. 2. 21
- 111) 橋本求:「関節リウマチ患者に合併するサルコペニアの実態調査-KURAMA コホートをを用いた検討-」, 第 59 回日本リウマチ学会総会・学術集会 2015. 4. 23-25
- 112) 吉田英世、石崎達郎、金憲経、金美芝、小島成実、平野浩彦、鈴木隆雄、地域在住高齢者を対象とした認知機能低下に関する要因の検討、第 57 回日本老年医学会学術集会、神奈川、2015. 6. 12-14
- 113) 吉田英世、井原一成、端詰勝敬、吉田祐子、小島成実、金美芝、平野浩彦、金憲経、蜂須貢、地域在住高齢者における BDNF (脳由来神経栄養因子) との関連性の検討、第 74 回日本公衆衛生学会総会、長崎、2015. 11. 4-6
- 114) Sable-Morita S, Satake S, Tanigawa T, et al. Frailty status classified by Kihon checklist in the elderly with diabetes Mellitus. 9<sup>th</sup> Metabolic Syndrome, Type 2 Diabetes and Atherosclerosis Congress, Kyoto, Japan. Sept 12-14, 2014
- 115) サブレ森田さゆり、佐竹 昭介、谷川 隆久、川嶋 修司、徳田 治彦 高齢糖尿病患者におけるフレイルとサルコペニア 第 1 回サルコペニア・フレイル研究会 東京
- 116) 佐竹 昭介、千田 一嘉、洪 英在、三浦 久幸、遠藤 英俊、櫻井 孝、近藤 和泉、鳥羽 研二 基本チェックリスト総合点によるフレイル評価の有用性 第 1 回サルコペニア・フレイル研究会 東京

**G. 知的財産権の出願・登録状況**

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし